

省エネルギー計算サポートソフトウェア

A-repo4

ユーザーガイド(住宅)

(住戸の外皮性能及び一次エネルギー消費量計算)

2025年11月

株式会社イズミコンサルティング

目 次

A-repo4 ユーザーガイド(住宅)	1
目 次	1
1 はじめに	1
2 基本情報の設定	1
2.1 基本情報の設定	1
3 届出書(通知書)	7
3.1 第一面	7
3.2 第二面	9
3.3 第三面(1)	10
3.4 第三面(2)	13
3.5 第四面	17
3.6 別紙	17
4 計画書(計画通知書)令和7年3月以前	18
4.1 第一面	18
4.2 第二面	20
4.3 第三面	22
4.4 第四面	23
4.5 第五面	23
4.6 第六面	25
4.7 第七面	26
4.8 別紙	26
5 計画書(計画通知書)令和7年4月以降	28
5.1 第一面	28
5.2 第二面	29
5.3 第三面	32
5.4 第四面	33
5.5 第五面	37
5.6 別紙	37
6 住戸タイプ登録	39
6.1 住戸タイプ登録	39
7 住戸構成図	40
7.1 住宅構成図	40
8 計算住戸の設定	47
8.1 計算住戸の設定	47
9 UA・ηA 計算	50
9.1 構造体登録	50
9.1.1 開口部	50

9.1.2	屋根、天井、外壁、床（外気に接する）、床（その他）	56
9.1.3	基礎等	63
9.1.4	熱橋部	65
9.1.5	界壁、界床	74
9.1.6	日除け	80
9.1.7	その他の機能	82
9.2	部位面積等入力	84
9.3	計算値確認	87
10	一次エネルギー消費量算定	88
10.1	外皮	88
10.2	暖房設備	89
10.3	冷房設備	95
10.4	換気設備	98
10.5	給湯設備	99
10.6	照明設備	104
10.7	太陽光発電設備	105
10.8	太陽熱（液体集熱式）設備	107
10.9	太陽熱（空気集熱式）設備	109
10.10	コージェネレーション設備	111
10.11	Web 計算支援	112
10.12	消費量集計	113
10.13	レポート出力	115
10.13.1	消費量集計	115
11	共用部の入力	116
奥付		117

1 はじめに

本プログラムは「平成 28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報（住宅）〈国立研究開発法人建築研究所〉」を基に作成し、住戸の外皮平均熱貫流率及び平均日射熱取得率の計算と住戸の一次エネルギー消費量算定（Web プログラムより結果を取得）を目的として開発されたソフトウェアです。

2 基本情報の設定

2.1 基本情報の設定

図 2-1 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。基本情報入力画面は、「建物概要」、「建築物省エネ法の様式」、「UA・ η A 計算情報」、「住宅一次エネルギー消費量（設備）」、「BELS 判定基準情報」、「建築一次エネルギー消費量算定（設備）」、「建築 評価対象」、「一次エネルギー消費量算定（機器登録）」、の 8 つに大別されます。

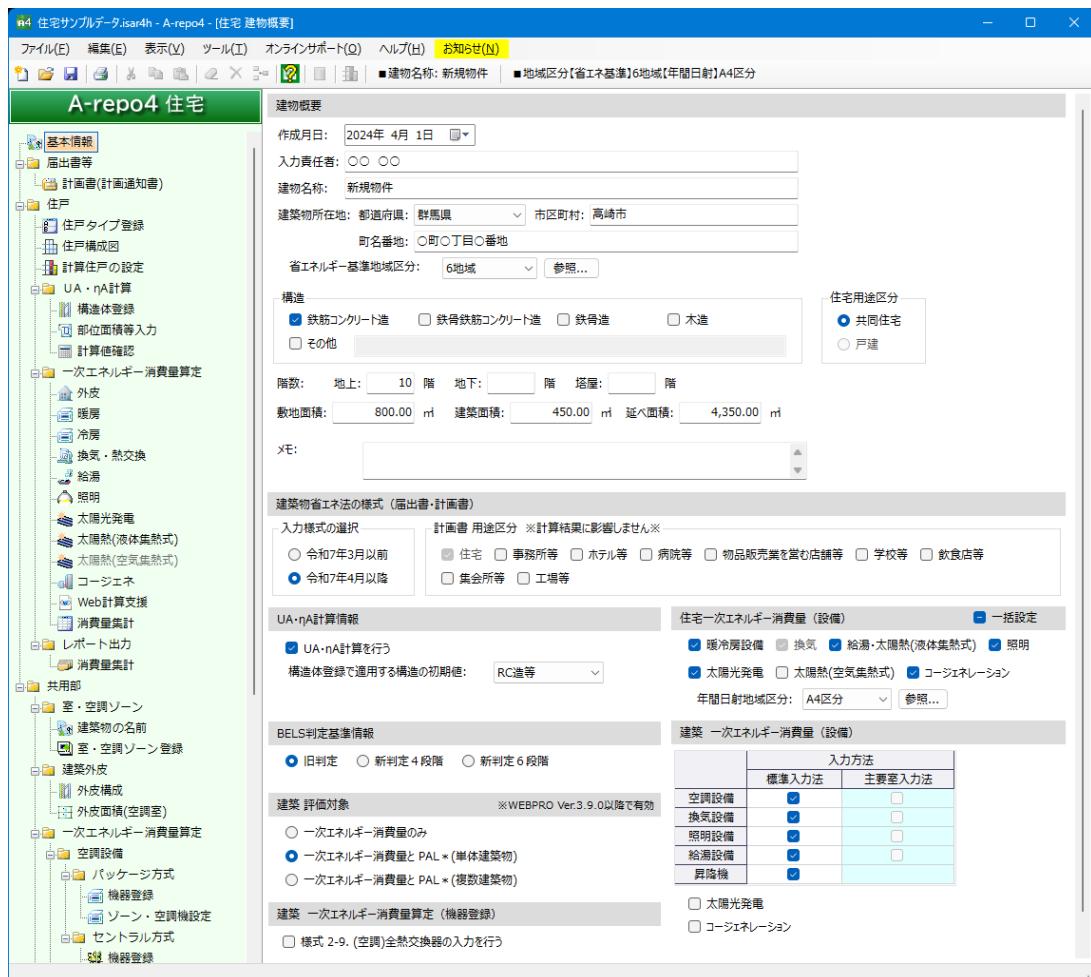


図 2-1

■建物概要

手順 1

「作成月日」……………作成月日を入力（デフォルト値はソフトウェアの起動日）

手順 2

「入力責任者」……………入力責任者の氏名を入力

手順 3

「建物名称」……………建物名称を入力

手順 4

「所在地」……………建設地の所在地を入力（都道府県名はプルダウンリストより選択）

手順 5

「省エネルギー基準地域区分」…省エネルギー基準地域区分を選択

ボタンを押す事により、手順4の所在地で設定した都道府県に該当する区域の一覧が表示され、市町村単位での文字列検索も可能となっています。（図 2-2 参照）

区域は、「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（平成 28 年経済産業省・国土交通令第 1 号）」を基に作成し、「○新基準」を選択した場合、令和 1 年 11 月 16 日より最新版の気象データを反映した新地域区分となっています。「○旧基準」を選択した場合、平成 27 年 4 月 1 日における行政区画によって表示されたものとなります。ただし、旧基準の括弧内に記載する区域は、平成 13 年 8 月 1 日における旧行政区画によって表示されたものとなっています。

※旧基準は令和 3 年 4 月以降使用出来ません。

A-repo では過去の物件ファイルを確認する際の参照用として残しています。

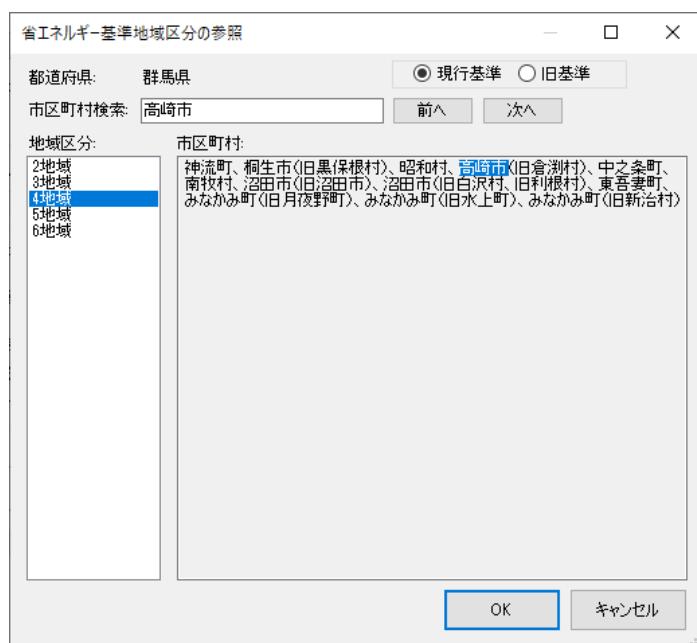


図 2-2

手順 6

「8 地域の基準の選択」 … 該当する基準を選択

※「省エネルギー基準地域区分」が 8 地域の場合のみ選択できます。

手順 7

「構造」 ……………… 該当する構造にチェック（複数選択可）

手順 8

「住宅用途区分」 ……………… 該当する住宅区分を選択

※「戸建」を選択する場合、〈7. 住戸構成図〉を入力する前に選択する必要があります。

手順 9

「階数」 ……………… 地上、地下階数をそれぞれ数値で入力

手順 10

「敷地、建築、延べ面積」 … 面積をそれぞれ数値で入力（単位：m²）

■建築物省エネ法の様式

手順 11

「入力様式の選択」 ……………… 届出書、計画書の入力様式を選択

手順 12

「用途区分」 ……………… 複数用途の場合は、該当する用途にチェック（複数選択可）
(住宅はデフォルトでチェック)

■UA・ η A 計算情報

手順 13

「UA・ η A 計算を行う」 … 本ソフトウェアで UA・ η A 計算を行う場合にチェック

手順 14

「構造体登録で適用する構造の初期値」

…………… 構造体登録での構造の初期値をプルダウンリストより選択
〈9.1 構造体登録〉で外壁等を選択する際、構造(RC 造等、
鉄骨造、木造)の初期値として用いられます。

■住宅一次エネルギー消費量（設備）

手順 15

「暖冷房設備」 ……………… 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 16

「換気設備」 ……………… 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 17

「給湯・太陽熱（液体集熱式）設備」

..... 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 18

「照明設備」 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 19

「太陽光発電」 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 20

「太陽熱(空気集熱式)」 .. 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 21

「コーディネーション」

..... 該当する設備があり、本ソフトウェアに設備仕様を入力する
場合にはチェック

手順 22

「年間日射地域区分」 年間日射地域区分を選択 (太陽熱給湯設備、太陽光発電設備
の入力を行う場合に選択)

参照ボタンを押す事により、**手順 4**の所在地で設定した都
道府県に該当する区域の一覧が表示され、市町村単位での文
字列検索も可能となっています。(図 2-3 参照)



図 2-3

■BELS 判定基準情報

BELS 評価判定に関する設定を行います。

手順 23

「BELS 判定基準」 …… 判定する基準を選択

■建築一次エネルギー消費量（設備）

住宅共用部の設備の入力に関する設定を行います。

手順 24

「入力方法」 …… 空調、換気、照明、給湯、昇降機、太陽光発電、コージェネレーションのそれぞれの設備について、

計算を行う場合チェックします。「主要室入力法」は住宅共用部では使用できません。

(詳細は「A-repo 4 ユーザーガイド(建築)」を参照してください。)

■建築 評価対象

住宅共用部の評価対象の設定を行います。

手順 25

「建築 評価対象」 …… 判定する基準を選択

「一次エネルギー消費量のみ」

…………… 一次エネルギー消費量のみ計算を行う

※PAL*の計算は行われない

※入力シート「8) 非空調外皮」への出力が行われない

※省エネ適合性判定や共同住宅共用部の届出用

「一次エネルギー消費量と PAL* (単体建築物)」

…………… 一次エネルギー消費量に加え PAL*の計算を行う

※(従来通り) 物件全体でまとめて省エネ計算を行う

※低炭素認定や性能向上認定(単体建築物)等用

「一次エネルギー消費量と PAL* (複合建築物)」

…………… 一次エネルギー消費量に加え PAL*の計算を行う

※建築物の名前毎に省エネ計算を行う

※室・空調ゾーン登録で「建築物の名称」の設定が必須

※性能向上認定(複数建築物の連携)等用

■一次エネルギー消費量算定（機器登録）

様式 2-9. (空調) 全熱交換器の入力に関する設定を行います。

手順 26

「様式 2-9. (空調) 全熱交換器の入力を行う」

..... 入力シートの「様式 2-9. (空調) 全熱交換器」への入力（出力）を行う場合チェック

3 届出書(通知書)

3.1 第一面

入力画面を基に届出書の入力手順を記載します。通知書の場合は、「建築主が国等（国、都道府県又は建築主事を置く市町村）」にチェックを入れます。

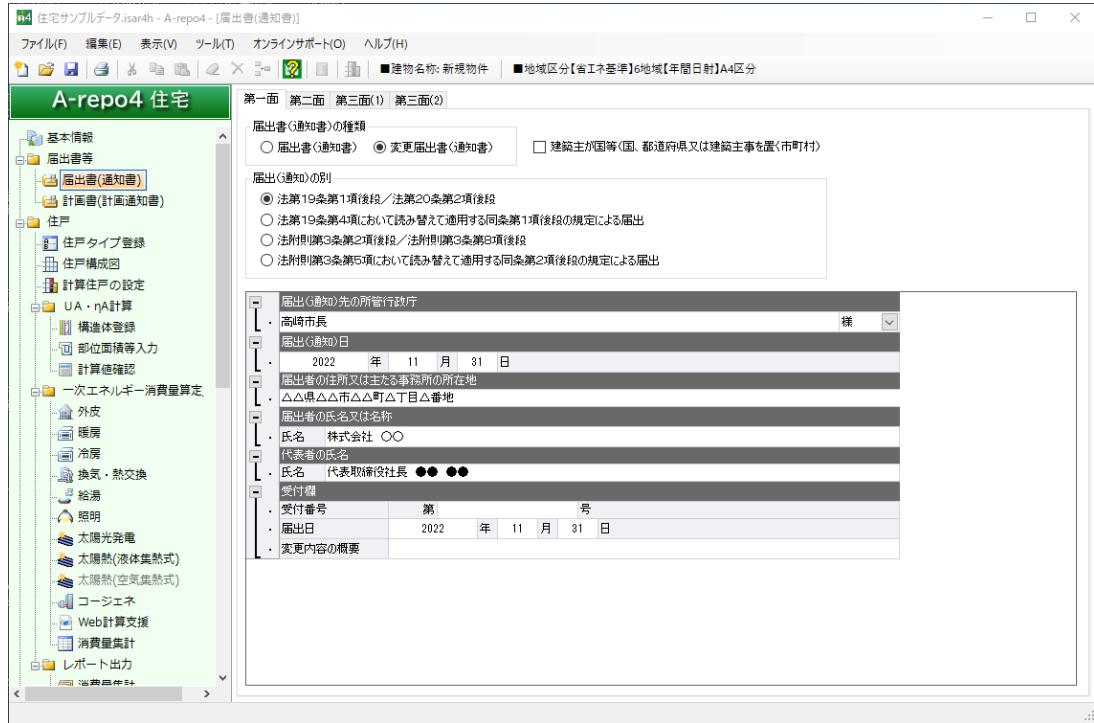


図 3-1

■届出書(通知書)の種類

手順 1

届出書(通知書)、変更届出書(通知書)の何れかにチェック

■建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)

手順 2

建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)の場合はチェックし、通知書を使用します。

■届出(通知)の別

手順 3

届出書（通知書）の種類が「届出書（通知書）」の場合

「法第19条第1項前段／法第20条2項前段」、

「法第19条第4項において読み替えて適用する同条第1項前段の規定による届出」、

「法附則第3条第2項前段／法付則第3条第8項前段」、

「法附則第3条第5項において読み替えて適用する同条第2項前段の規定による届出」

の何れかにチェック

届出書（通知書）の種類が「変更届出書（通知書）」の場合

「法第19条第1項後段／法第20条2項後段」、
「法第19条第4項において読み替えて適用する同条第1項後段の規定による届出」、
「法附則第3条第2項後段／法付則第3条第8項後段」、
「法附則第3条第5項において読み替えて適用する同条第2項後段の規定による届出」
の何れかにチェック

■届出(通知)先の所管行政庁

手順 4

届出書(通知書)を提出する所管行政庁名を入力

■届出(通知)日

手順 5

年月日を西暦で入力

■届出者の住所又は主たる事務所の所在地（手順2にてチェックを行わなかった場合入力）

手順 6

届出者の住所を入力

※通知書の場合は手順12、13

■届出者の氏名又は名称（手順2にてチェックを行わなかった場合入力）

手順 7

通常、「名称」として届出者の会社名を入力

※通知書の場合は手順12、13

■代表者の氏名（手順2にてチェックを行わなかった場合入力）

手順 8

代表者の氏名を入力

※通知書の場合は手順12、13

■受付欄（手順1にて変更届出書（通知書）にチェックを行った場合のみ入力）

手順 9

「受付番号」……………前回届出書を提出した時の受付番号を入力

手順 10

「届出日」……………年月日を西暦で入力

手順 11

「変更内容の概要」……………変更内容の概要を入力

■通知者官職（手順2にてチェックを行った場合のみ入力）

手順 12

通知者官職の氏名を入力

■設計者の氏名 (手順2にてチェックを行った場合のみ入力)

手順 13

設計者の氏名を入力

3.2 第二面

入力画面を基に入力手順を記載します。

图 3-2

■ 建筑主

手順 1

「氏名のフリガナ」……会社名、代表者名のフリガナをカタカナで入力

手順 2

「氏名」 会社名、代表者名を入力

手順 3

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 4

「住所」 住所を入力

手順 5

「電話番号」 電話番号を入力

■代理者

手順 6

「氏名」 委任を受けて届出を行う代理者名を入力

手順 7

「勤務先」 勤務先名称を入力

手順 8

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 9

「所在地」 所在地を入力

手順 10

「電話番号」 電話番号を入力

■設計者

上記手順 6 から手順 10 と同様（氏名は設計者名を入力）

3.3 第三面(1)

入力画面を基に入力手順を記載します。

図 3-3

■地名地番～建築物の階数

手順 1

「地名地番」他 地名地番、敷地面積等の情報は〈2 基本情報の設定〉（1 ページ参照）にて入力した情報が表示されています。

■建築物の用途

手順 2

「用途」 建築物の用途を一戸建て・共同住宅・複合建築物から選択します。

■建築物の住戸の数

手順 3

「建築物の住戸の数」 住戸の数は、<7. 住戸構成図>(40 ページ)・<8. 計算住戸の設定>(47 ページ)で入力した内容をもとに自動で算出されます。

■工事種別

手順 4

「工事種別」 工事の種別を 新築・増築・改築 から選択します。

■建築物の床面積

手順 5

「床面積」 建物の床面積を入力します。増築・改築の場合は、建物全体と増改築部分のみの両方の床面積を入力します。

「開放部分を除いた 開放部分を除いた部分の床面積を入力します。増築・改築の部分の床面積」 場合は、建物全体と増改築部分のみの両方について入力します。

■構造

手順 6

「構造」 建築物の構造について、一部の部分の構造を手入力します。主たる部分の構造は、<2 基本情報の設定>(1 ページ参照)の「構造」で入力した情報が表示されています。

■法附則第3条の適用の有無

手順 7

「法附則第3条の適用の有無」 法附則第3条の適用の有無を選択します。
有 を選択した場合、竣工年月日も入力します。

■基準省令附則第2条の適用の有無

手順 8

「基準省令附則第2条の適用の有無」 基準省令附則第2条の適用の有無を選択します。
有 を選択した場合、所管行政庁名も入力します。

■基準省令附則第3条若しくは第4条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無

手順 9

「基準省令附則第3条若しくは第4条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無」 基準省令附則第3条又は第4条の適用の有無を選択します。

有 を選択した場合、竣工年月日も入力します。

■該当する地域区分

手順 10

「地域区分」……………〈2 基本情報の設定〉(1 ページ参照)にて入力した情報が表示されています。

3.4 第三面(2)

入力画面を基に入力手順を記載します。

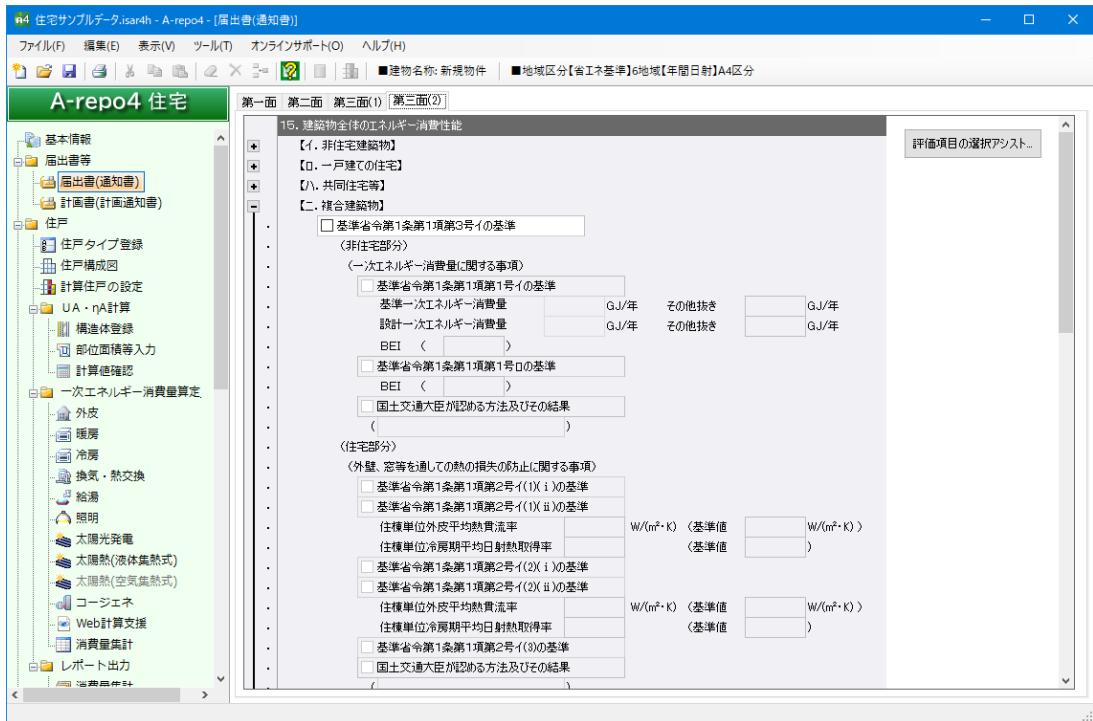


図 3-4

■建築物全体の一次エネルギー消費性能

《ロ.一戸建て住宅》の場合

〈3.3 第三面(1)〉の[建築物の用途]にて「一戸建ての住宅」を選択した場合、入力が可能となります。

手順 1

(外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(i)の基準」を選択した場合、〈9.2 部位面積等入力〉の計算結果が自動的に表示されます。

手順 2

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「11310.12 消費量集計 10.13.1」で入力した計算結果が自動的に表示されます。また、BEIも自動的に表示されます。

《ハ.共同住宅等》の場合

〈3.3 第三面(1)〉の[建築物の用途]にて「共同住宅等」を選択した場合、入力が可能となります。

手順 1

(外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算(住戸評価)の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(i)

の基準」をチェックします。

標準計算（住棟評価）の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」を選択した場合、〈9.3 計算値確認〉で計算された「住棟平均」が自動的に表示されます。

手順 2

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「」で入力した計算結果が自動的に表示されます。また、BEIも自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

《二. 複合建築物》の場合

〈3.3 第三面(1)〉の[建築物の用途]にて「複合建築物」を選択した場合、入力が可能となります。

「非住宅部分かつ住宅部分」の場合、「基準省令第1条第1項第3号イの基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第3号イの基準」を選択した場合、以下の入力が可能となります。

手順 1

(非住宅部分)

手順 1-1

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第1号イの基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した値が自動的に表示されます。

また、BEIも自動的に表示されます。

手順 2

(住宅部分)

手順 2-1

(外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算（住戸評価）の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(i)の基準」をチェックします。

標準計算（住棟評価）の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ

(1) (ii) の基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」を選択した場合、
〈9.3 計算値確認〉で計算された「住棟平均」が自動的に表示されます。

手順 2-2

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した計算結果が自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

「複合建築物」の場合、「基準省令第1条第1項第3号ロの基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第3号ロの基準」を選択した場合、以下の入力が可能となります。

手順 1

(複合建築物)

(一次エネルギー消費量に関する事項)

一次エネルギー消費量は「10.1210.12 消費量集計」で入力した計算結果が

自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

手順 2

(住宅部分)

(外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算(住戸評価)の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(i)の基準」をチェックします。

標準計算(住棟評価)の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」を選択した場合、
〈9.3 計算値確認〉で計算された「住棟平均」が自動的に表示されます。

■工事着手予定年月日

手順 3

「工事着手予定年月日」…工事着手予定年月日を入力します。

■工事完了予定年月日

手順 4

「工事完了予定年月日」…工事完了予定年月日を入力します。

共同住宅の各住戸の計算結果は、第四面別紙としてExcel出力されます。

■備考

手順 5

「備考」……………必要に応じて入力します。

■印刷設定

手順 6

「印刷設定」……………出力する届出書に、「その他を除く一次エネルギー消費量」も印刷する場合、チェックします。

「評価項目の選択アシスト」ボタンを押下し入力アシスト画面から設定することができます。

「評価項目の選択アシスト」

……………評価項目を選択し、「閉じる」ボタンを押下すると設定が反映されます。



図 3-5

3.5 第四面

第四面は、A-repo 内では入力できません。

3.6 別紙

外皮仕様基準適用住戸が存在する場合又は第三面(2)にて、(外壁、窓を通しての熱の損失の防止に関する事項) で「基準省令第 1 条第 1 項第 2 号イ(3)の基準にチェックを入れた場合に表示されます。

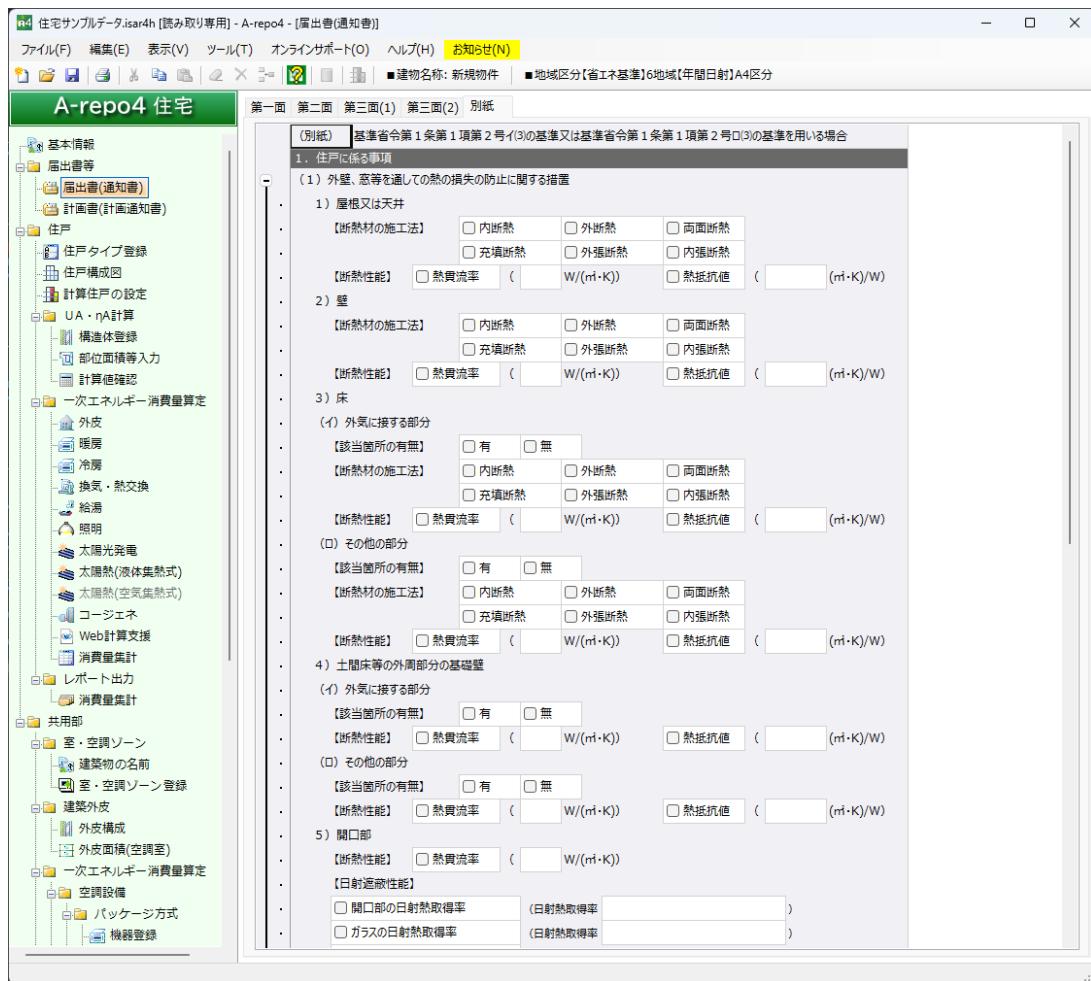


図 3-6

4 計画書(計画通知書)令和7年3月以前

4.1 第一面

入力画面を基に入力手順を記載します。

図 4-1

■計画書(計画通知書)の種類

手順 1

「計画書(計画通知書)の種類」

..... 計画書(計画通知書)、変更計画書(計画通知書)の何れかにチェックします。

■建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)

手順 2

「建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)」

建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)の場合はチェックし、通知書を使用します。

■提出先の所官庁又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関

手順 3

「提出先の所官行政府又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関」

..... 所管行政庁名または判定機関名を入力します。

■ 提出日

手順 4

「提出日」……………年月日を西暦で入力します。

■提出者の住所又は主たる事務所の所在地（手順2にてチェックを行わなかった場合入力）

手順 5

「提出者の氏名又は主たる事務所の所在地」

…………… 提出者の氏名又は主たる事務所の所在地を入力します。

■提出者の氏名又は名称（手順2にてチェックを行わなかった場合入力）

手順 6

「提出者の氏名又は名称」

…………… 提出者の氏名、または会社名を入力します。

■代表者の氏名（手順2にてチェックを行わなかった場合入力）

手順 7

「代表者の氏名」………… 代表者の氏名を入力します。

■設計者の氏名

手順 8

「設計者の氏名」………… 設計者の氏名を入力します。

■適合判定通知書（手順1にて変更届出書にチェックを行った場合のみ入力）

手順 9

「通知書番号」………… 前回計画書を提出し、通知を受けた時の通知番号を入力

手順 10

「交付年月日」………… 年月日を西暦で入力

手順 11

「通知書交付者」………… 通知書交付者を入力

手順 12

「計画変更の対象の範囲」

…………… 計画変更の対象の範囲を選択

手順 13

「変更内容の概要」………… 変更内容の概要を入力

■通知者官職（手順2にてチェックを行った場合のみ入力）

手順 14

「氏名」…………… 設計者の氏名を入力します。

4.2 第二面

図 4-2 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

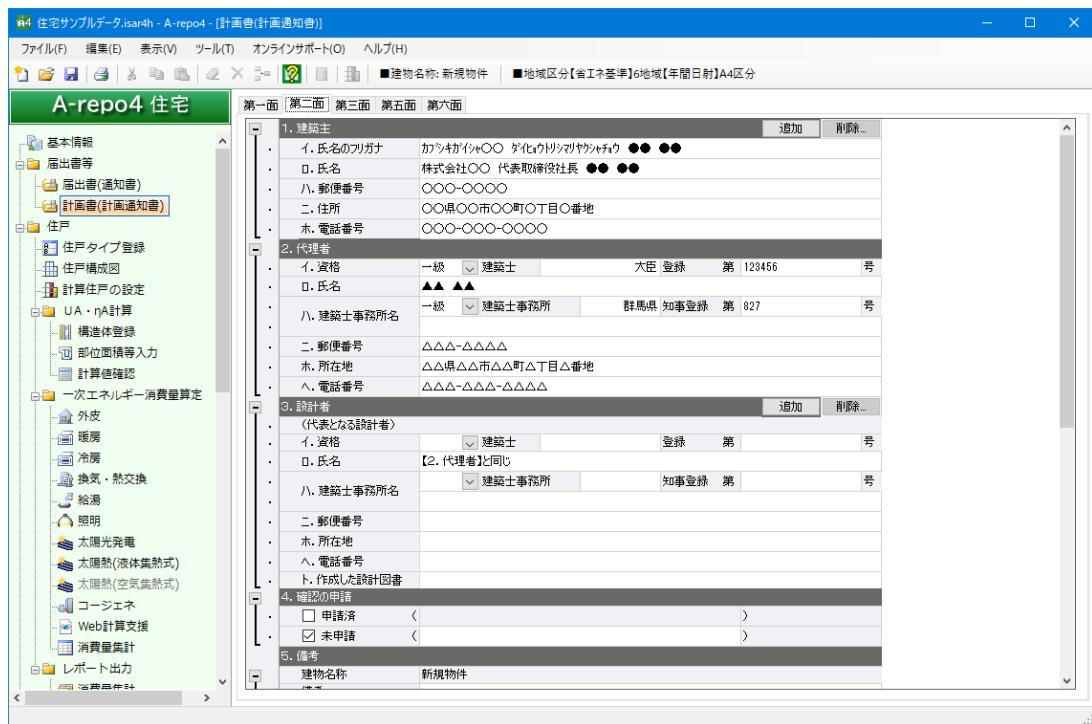


図 4-2

■建築主

手順 1

「氏名のフリガナ」 会社名、建築主名のフリガナをカタカナで入力

手順 2

「氏名」 会社名、建築主名を入力

手順 3

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 4

「住所」 住所を入力

手順 5

「電話番号」 電話番号を入力

■代理人

手順 6

「資格」 代理人の建築士資格の級、登録先、登録番号を入力

手順 7

「氏名」 委任を受けて届出を行う代理者名を入力

手順 8

「建築士事務所」 一行目に建築士事務所の級、登録先、登録番号を入力
二行目に建築士事務所名を入力

手順 9

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 10

「所在地」 所在地を入力

手順 11

「電話番号」 電話番号を入力

■設計者

上記**手順 6**から**手順 11**と同様（氏名は設計者名を入力）

手順 12

「作成した設計図書」 作成した設計図書名を入力

■確認の申請

手順 13

「申請済・未申請」 確認申請の状況を入力

また、申請先の検査機関名を入力します。

■備考

「備考」 備考で記載する事項があれば入力します。

4.3 第三面

図 4-3 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 4-3

■地名地番～建築物の階数

手順 1

「地名地番」等…………<2 基本情報の設定>で入力した内容が表示されます。

■建築物の用途

手順 2

「用途」……………常に「複合建築物」が選択されています。変更の必要はありません。

■工事種別

手順 3

「用途」……………工事の種別を新築・増築・改築から選択します。

■構造

手順 4

「構造」……………建築物の構造について、一部の部分の構造を手入力します。主たる部分の構造は<2 基本情報の設定>(1 ページ参照)の「構造」で入力した情報が表示されます。

■該当する地域区分

手順 5

「地域」……………<2 基本情報の設定>で入力した内容が表示されます。

■工事着手予定日、工事完了予定日

手順 6

「工事着手予定年月日」

..... 西暦で年月日を入力します。

「工事完了予定年月日」

..... 西暦で年月日を入力します。

4.4 第四面

第四面は、A-repo 内では入力できません。

計画書の出力後に、Excel ファイルに付近見取図・配置図を貼付してください。

4.5 第五面

図 4-4 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

複合建築物の場合に、非住宅部分の情報を入力します。



第五面

1. 非住宅部分の用途

2. 非住宅部分の床面積

3. 基準省令附則第3条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無

4. 非住宅部分のエネルギー消費性能

5. 備考

図 4-4

■非住宅部分の用途

手順 1

「非住宅部分の用途」..... 非住宅部分の用途は〈2 基本情報の設定〉(1 ページ参照)にて入力した情報が表示されます。

■非住宅部分の床面積

手順 2

「床面積」 床面積を入力します。

新築の場合は 合計床面積と、開放部分を除いた面積を入力します。

増築・改築の場合は、建物全体と増改築部分のそれぞれについて、合計床面積と、開放部分を除いた面積を入力します。

■基準省令附則第3条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無

手順 3

「基準省令附則第3条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無」

..... 基準省令附則第3条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無を選択します。

有 を選択した場合、竣工年月日も入力します。

■非住宅部分のエネルギー消費性能

手順 4

「イの基準」「ロの基準」

..... 非住宅部分のエネルギー消費量の計算で使用した計算方法を選択します。通常の計算方法の場合、「イ」を選択します。

具体的なエネルギー消費量の値は、<10.12 消費量集計>(113 ページ)で入力します。

■備考

手順 5

「備考」 必要に応じて入力します。

■印刷設定

手順 6

「印刷設定」 出力する届出書に、「その他を除く一次エネルギー消費量」も印刷する場合、チェックします。

4.6 第六面

図 4-5 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

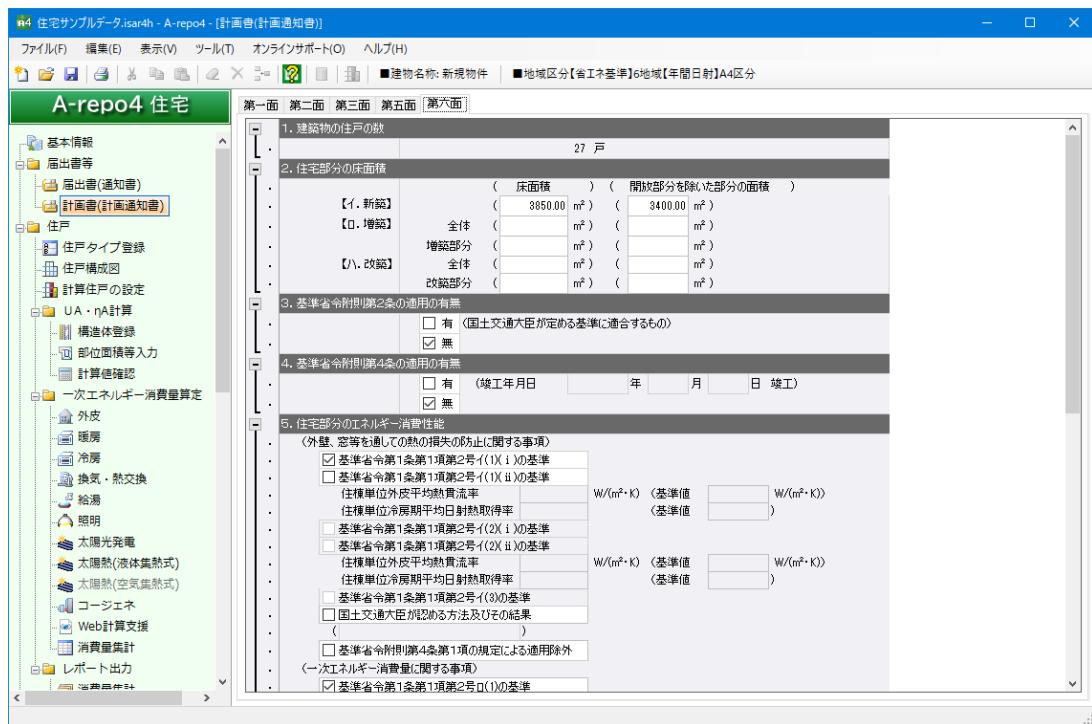


図 4-5

■建築物の住戸の数

手順 1

「戸」 ゲストルームを除く住戸の数を表示します。<7 住戸構成図>(40 ページ)、<8 計算住戸の設定>(47 ページ)で設定した内容により、自動的に計算されます。

■住宅部分の床面積

手順 2

「床面積」 床面積を入力します。

新築の場合は 合計床面積と、開放部分を除いた面積を入力します。

増築・改築の場合は、建物全体と増改築部分のそれぞれについて、合計床面積と、開放部分を除いた面積を入力します。

■基準省令附則第 2 条の適用の有無

手順 3

「基準省令附則第 2 条の適用の有無」

..... 基準省令附則第 2 条の適用の有無を選択します。

有 を選択した場合、所轄官公庁名も入力します。

■基準省令附則第4条の適用の有無

手順 4

「基準省令附則第4条の適用の有無」

…………… 基準省令附則第4条の適用の有無を選択します。

有を選択した場合、竣工年月日も入力します。

■住宅部分の一次エネルギー消費性能

手順 5

(外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算(住戸評価)の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(i)の基準」をチェックします。

標準計算(住棟評価)の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第2号イ(1)(ii)の基準」を選択した場合、〈9.3 計算値確認〉で計算された「住棟平均」が自動的に表示されます。

手順 6

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した計算結果が自動的に表示されます。

また、BEIも自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

共同住宅の各住戸の計算結果は、第七面別紙としてExcel出力されます。

4.7 第七面

第七面は、A-repo内では入力できません。

4.8 別紙

外皮仕様基準適用住戸が存在する場合又は第六面にて、(外壁、窓を通しての熱の損失の防止に関する事項)で「基準省令第1条第1項第2号イ(3)の基準」にチェックを入れた場合に表示されます。

図 4-6 は、A-repo4 住宅用の計画通知書入力画面を示す。画面は「A-repo4 住宅」というタブで開かれており、左側にはツリー構造のメニューが表示されている。

メニュー構造（左側）：

- 基本情報
- 届出書等
 - 届出書(通知書)
 - 計画書(計画通知書)
- 戸別
 - 戸別タイプ登録
 - 戸別構成図
 - 計算戸別の設定
 - UA・A計算
 - 構造体登録
 - 部位面積等入力
 - 計算値確認
 - 一次エネルギー消費量算定
 - 外皮
 - 暖房
 - 冷房
 - 換気・熱交換
 - 給湯
 - 照明
 - 太陽光発電
 - 太陽熱(液体集熱式)
 - 太陽熱(空気集熱式)
 - コージエネ
 - Web計算支援
 - 消費量集計
 - レポート出力
 - 消費量集計
- 共有部
 - 室・空調ソーン
 - 建築物の名前
 - 室・空調ソーン登録
 - 建築外皮
 - 外皮構成
 - 外皮面積(空調室)
 - 一次エネルギー消費量算定
 - 空調設備
 - パッケージ方式
 - 機器登録

入力画面（右側）：

1. 非住宅部分の用途

□ 事務所等 □ ホテル等 □ 病院等 □ 物品販売業を営む店舗等
 □ 学校等 □ 飲食店等 □ 集会所等 □ 工場等
2. 非住宅部分の床面積

【イ. 新築】 (床面積) (開放部分を除いた部分の面積)
 全体 () ()
 増築部分 () ()
 【ハ. 改築】 全体 () ()
 改築部分 () ()
3. 基準省令附則第3条又は令和4年改正基準省令附則第2項の適用の有無

有 基準省令附則第3条の適用
 (竣工年月日 年 月 日 竣工)
 有 令和4年改正基準省令附則第2項の適用
 (竣工年月日 年 月 日 竣工)
 無
4. 非住宅部分のエネルギー消費性能

基準省令第1条第1項第1号イの基準

基準一次エネルギー消費量 (<input type="text" value="0.0"/> GJ/年)	その他抜き一次エネ値 (<input type="text" value="0.0"/> GJ/年)
設計一次エネルギー消費量 (<input type="text" value="0.0"/> GJ/年)	その他抜き一次エネ値 (<input type="text" value="0.0"/> GJ/年)
BEI (<input style="width: 100px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text" value=""/>)	

 基準省令第1条第1項第1号イの基準

BEI (<input style="width: 100px; height: 20px; border: 1px solid black;" type="text" value=""/>)
--

 国土交通大臣が認める方法及びその結果 ()
5. 備考
- 印刷設定

その他抜き の値を印刷

図 4-6

5 計画書(計画通知書)令和7年4月以降

5.1 第一面

入力画面を基に入力手順を記載します。

図 5-1

■計画書(計画通知書)の種類

手順 1

「計画書(計画通知書)の種類」

..... 計画書(計画通知書)、変更計画書(計画通知書)の何れかにチェックします。

■建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)

手順 2

「建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)」

建築主が国等(国、都道府県又は建築主事を置く市町村)の場合はチェックし、通知書を使用します。

■提出先の所官庁又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関

手順 3

「提出先の所官行政庁又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関」

..... 所管行政庁名または判定機関名を入力します。

■ 提出日

手順 4

「提出日」……………年月日を西暦で入力します。

■提出者の住所又は主たる事務所の所在地 (手順2)にてチェックを行わなかった場合入力)

手順 5

「提出者の氏名又は主たる事務所の所在地」

…………… 提出者の氏名又は主たる事務所の所在地を入力します。

■提出者の氏名又は名称 (手順2)にてチェックを行わなかった場合入力)

手順 6

「提出者の氏名又は名称」

…………… 提出者の氏名、または会社名を入力します。

■代表者の氏名 (手順2)にてチェックを行わなかった場合入力)

手順 7

「代表者の氏名」 …… 代表者の氏名を入力します。

■設計者の氏名

手順 8

「設計者の氏名」 …… 設計者の氏名を入力します。

■適合判定通知書 (手順1)にて変更届出書にチェックを行った場合のみ入力)

手順 9

「通知書番号」 …… 前回計画書を提出し、通知を受けた時の通知番号を入力

手順 10

「交付年月日」 …… 年月日を西暦で入力

手順 11

「通知書交付者」 …… 通知書交付者を入力

手順 12

「変更内容の概要」 …… 変更内容の概要を入力

■通知者官職 (手順2)にてチェックを行った場合のみ入力)

手順 13

「氏名」 …… 設計者の氏名を入力します。

5.2 第二面

図 5-2 図 4-2 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

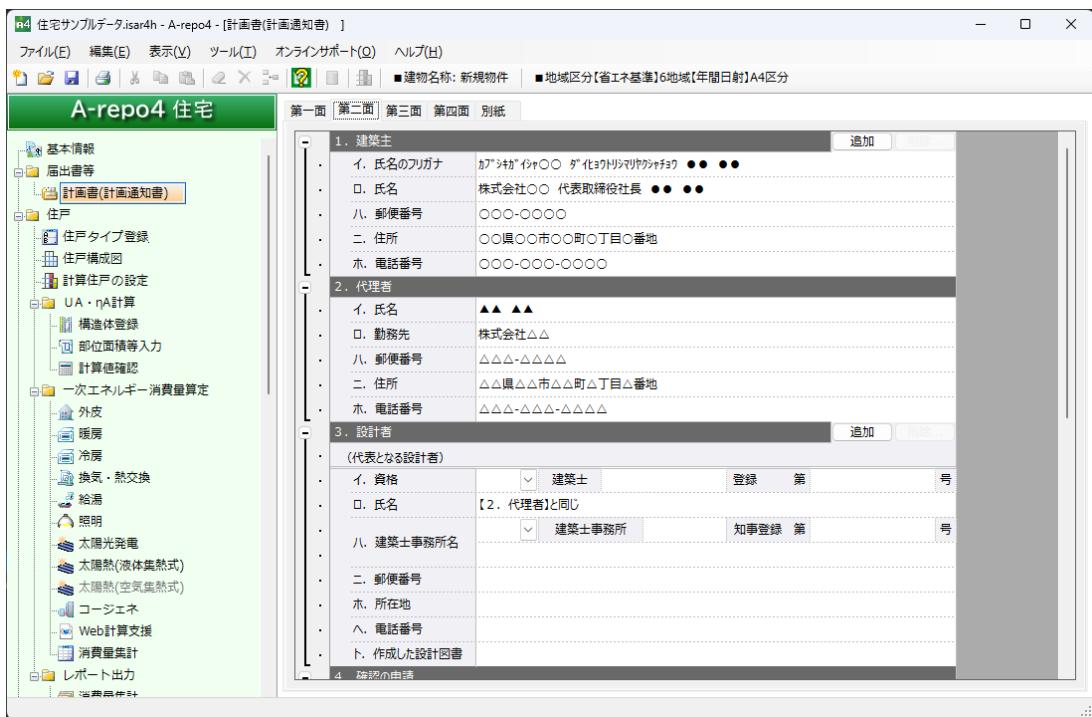


図 5-2

■建築主

手順 1

「氏名のフリガナ」 会社名、建築主名のフリガナをカタカナで入力

手順 2

「氏名」 会社名、建築主名を入力

手順 3

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 4

「住所」 住所を入力

手順 5

「電話番号」 電話番号を入力

■代理者

手順 6

「氏名」 委任を受けて届出を行う代理者名を入力

手順 7

「勤務先」 勤務先を入力

手順 8

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 9

「住所」 住所を入力

手順 10

「電話番号」 電話番号を入力

■設計者

手順 11

「資格」 代理者の建築士資格の級、登録先、登録番号を入力

手順 12

「氏名」 委任を受けて届出を行う代理者名を入力

手順 13

「建築士事務所名」 一行目に建築士事務所の級、登録先、登録番号を入力
二行目に建築士事務所名を入力

手順 14

「郵便番号」 郵便番号を入力

手順 15

「所在地」 所在地を入力

手順 16

「電話番号」 電話番号を入力

手順 17

「作成した設計図書」 作成した設計図書名を入力

■確認の申請

手順 18

「申請済・未申請」 確認申請の状況を入力

また、申請先の検査機関名を入力します。

■備考

「備考」 備考で記載する事項があれば入力します。

5.3 第三面

図 4-3 図 5-3 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

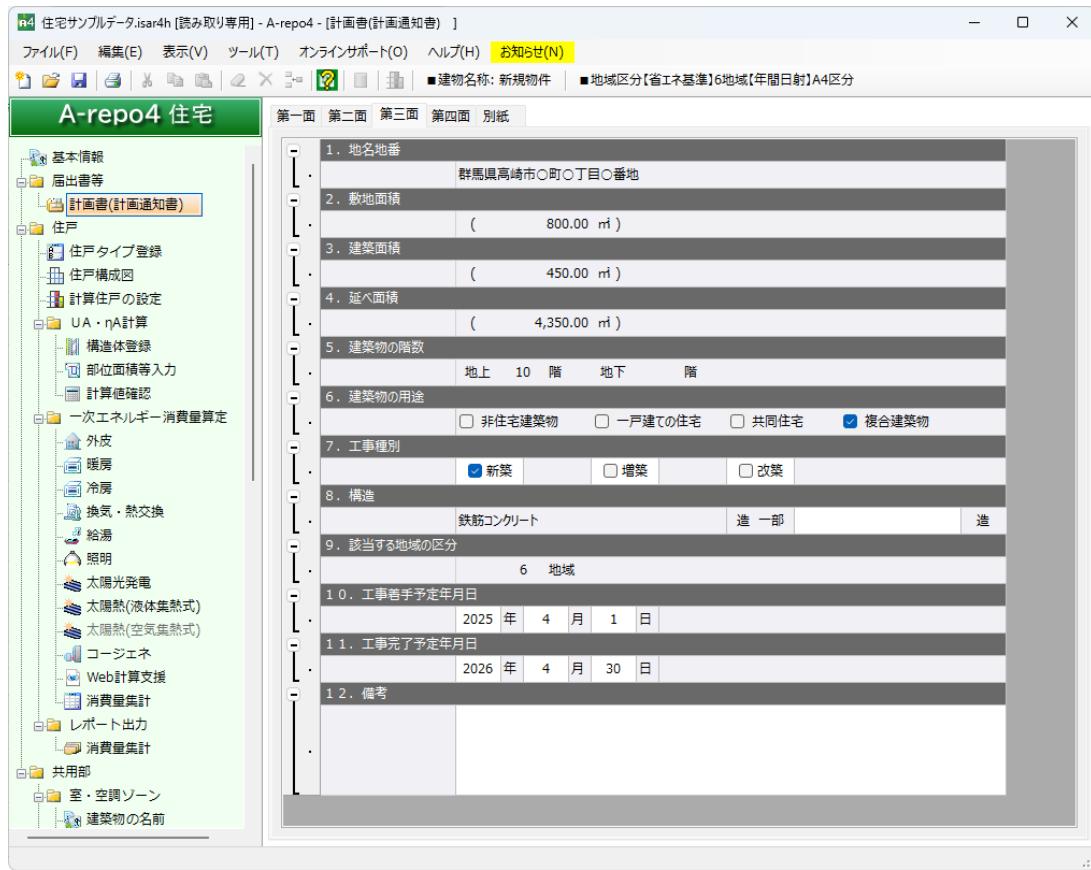


図 5-3

■地名地番～建築物の階数

手順 1

「地名地番」等……… <2 基本情報の設定>で入力した内容が表示されます。

■建築物の用途

手順 2

「用途」…………… <2 基本情報の設定>で設定した用途区分により選択されています。

■工事種別

手順 3

「用途」…………… 工事の種別を新築・増築・改築から選択します。

■構造

手順 4

「構造」…………… 建築物の構造について、一部の部分の構造を手入力します。主たる部分の構造は <2 基本情報の設定> (1 ページ参照) の

「構造」で入力した情報が表示されます。

■該当する地域区分

手順 5

「地域」 <2 基本情報の設定>で入力した内容が表示されます。

■工事着手予定日、工事完了予定日

手順 6

「工事着手予定年月日」

..... 西暦で年月日を入力します。

「工事完了予定年月日」

..... 西暦で年月日を入力します。

5.4 第四面

図 4-4 図 5-4 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

複合建築物の場合に、非住宅部分の情報を入力します。

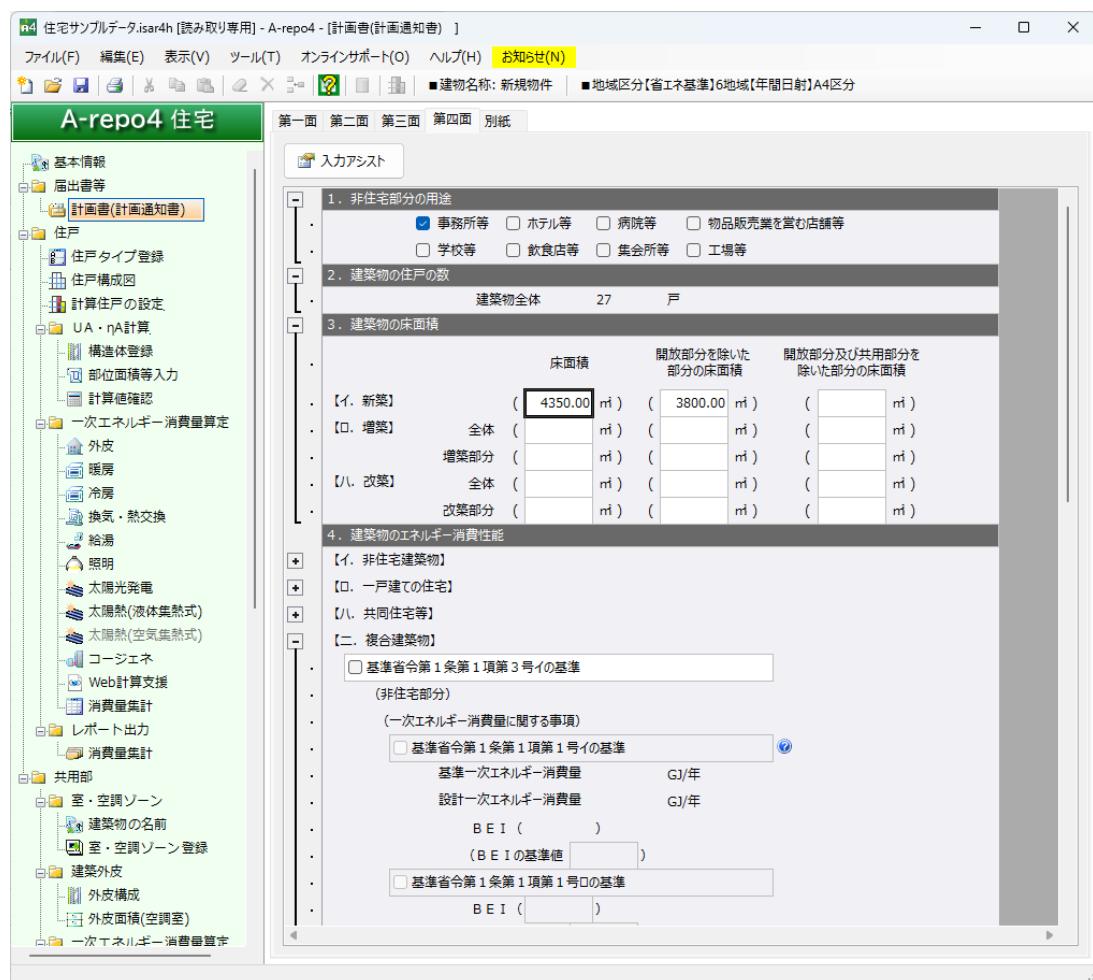


図 5-4

■非住宅部分の用途

手順 1

「非住宅部分の用途」……非住宅部分の用途は〈2 基本情報の設定〉(1 ページ参照)にて入力した情報が表示されます。

■建築物の住戸の数

手順 2

「戸」……………ゲストルームを除く住戸の数を表示します。〈7 住戸構成図〉(40 ページ)、〈8 計算住戸の設定〉(47 ページ)で設定した内容により、自動的に計算されます。

■建築物の床面積

手順 3

「床面積」……………床面積を入力します。

新築の場合は 合計床面積、開放部分を除いた面積、開放部分及び共用部分を除いた部分の床面積を入力します。

増築・改築の場合は、建物全体と増改築部分のそれぞれについて、合計床面積、開放部分を除いた面積、開放部分及び共用部分を除いた部分の床面積を入力します。

■建築物のエネルギー消費性能

《ロ. 一戸建て住宅》の場合

〈5.3 第三面〉の[建築物の用途]にて「一戸建ての住宅」が選択されている場合、入力が可能となります。

手順 1

(外壁、壁等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号イ(1)の基準」を選択した場合、〈9.2 部位面積等入力〉の計算結果が自動的に表示されます。

手順 2

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した計算結果が自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

《ハ. 共同住宅等》の場合

〈5.3 第三面〉の[建築物の用途]にて「共同住宅等」が選択されている場合、入力が可能となります。

手順 1

(外壁、壁等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)の基準」をチェックします。

手順 2

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した計算結果が自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

《二. 複合建築物》の場合

〈5.3 第三面〉の[建築物の用途]にて「複合建築物」が選択されている場合、入力が可能となります。

「非住宅部分かつ住宅部分」の場合、「基準省令第1条第1項第3号イの基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第3号イの基準」を選択した場合、以下の入力が可能となります。

手順 1

(非住宅部分)

手順 1-1

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第1号イの基準」を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した値が自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

手順 2

(住宅部分)

手順 2-1

(外壁、壁等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)の基準」をチェックします。

手順 2-2

(一次エネルギー消費量に関する事項)

「基準省令第1条第1項第2号ロ(1)の基準を選択した場合、一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した計算結果が自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

「複合建築物」の場合、「基準省令第1条第1項第3号ロの基準」をチェックします。

「基準省令第1条第1項第3号ロの基準」を選択した場合、以下の入力が可能となります。

手順 1

(複合建築物)

(一次エネルギー消費量に関する事項)

一次エネルギー消費量は「10.12 消費量集計」で入力した計算結果が自動的に表示されます。

また、BEI も自動的に表示されます。

「基準省令第4条第3項に掲げる数値の区分」は、「共用部有り」の場合は第1号に、「共用部無し」の場合は、第2号にチェックします。

手順 2

(住宅部分)

(外壁、壁等を通しての熱の損失の防止に関する事項)

標準計算の場合、「基準省令第1条第1項第2号イ(1)の基準」をチェックします。

■備考

手順 3

「備考」 必要に応じて入力します。

「入力アシスト」ボタンを押下し入力アシスト画面から設定することができます。

「入力アシスト」

..... 評価項目を選択し、「閉じる」ボタンを押下すると設定が反映されます。



図 5-5

5.5 第五面

第五面は、A-repo 内では入力できません。

5.6 別紙

外皮仕様基準適用住戸が存在する場合又は第四面にて、(外壁、壁等を通しての熱の損失の防止に関する事項) で「基準省令第1条第1項第2号イ(2)の基準」又は、「国土交通大臣が認める方法及びその結果」にチェックを入れた場合に住戸に係る事項を入力します。

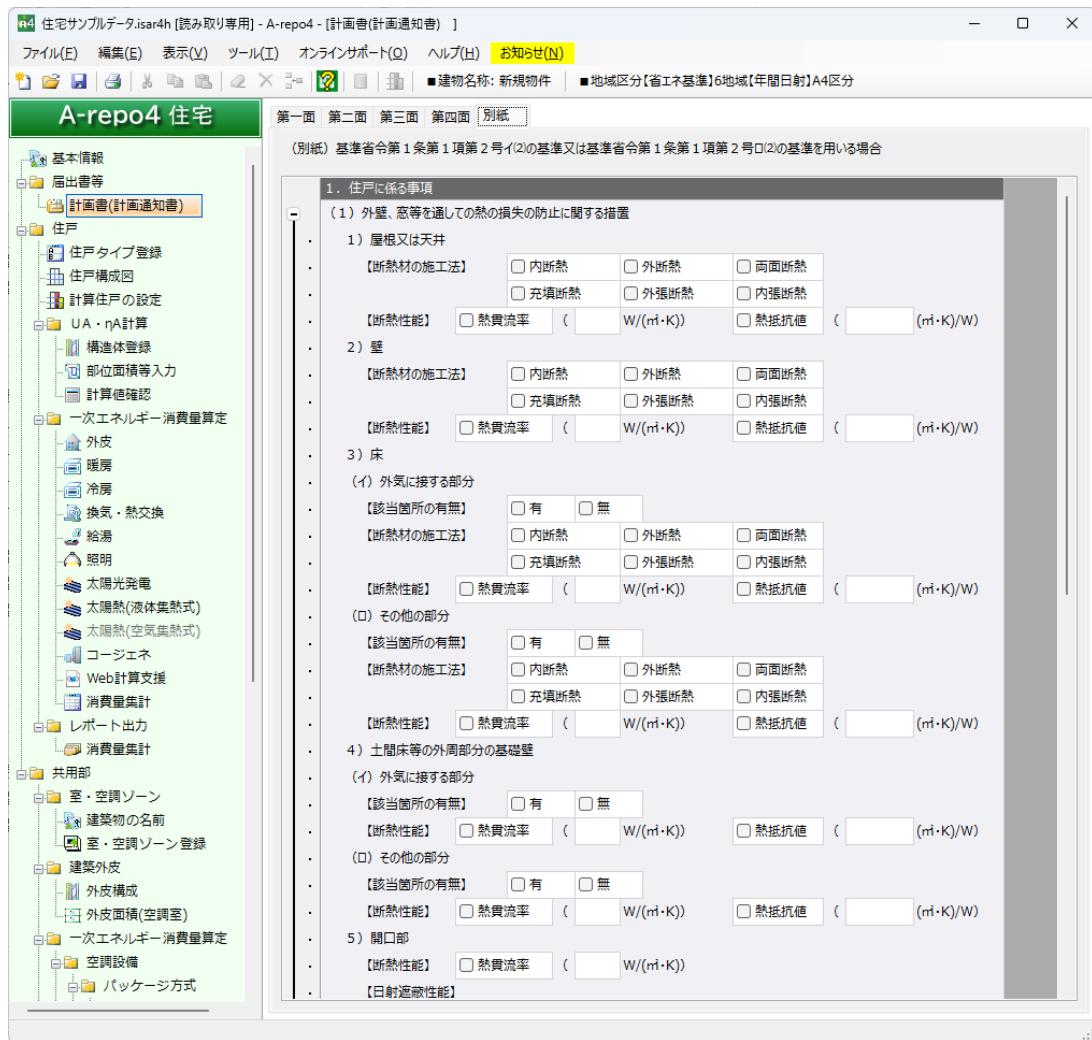


図 5-6

6 住戸タイプ登録

6.1 住戸タイプ登録

図 6-1 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。ここでは住戸タイプ名とタイプごとの各面積を入力します。

	住戸タイプ名	住戸床面積 [m ²]	主たる居室面積 [m ²]	その他の居室面積 [m ²]	非居室面積 [m ²]	ゲストルーム
1	Aタイプ	60.00	21.00	24.00	15.00	<input type="checkbox"/>
2	Bタイプ	72.00	25.20	28.80	18.00	<input type="checkbox"/>
3	Cタイプ	84.00	29.40	33.60	21.00	<input type="checkbox"/>
4	Dタイプ	108.00	37.80	43.20	27.00	<input type="checkbox"/>
5						<input type="checkbox"/>
6						<input type="checkbox"/>
7						<input type="checkbox"/>
8						<input type="checkbox"/>
9						<input type="checkbox"/>
10						<input type="checkbox"/>
11						<input type="checkbox"/>
12						<input type="checkbox"/>
13						<input type="checkbox"/>
14						<input type="checkbox"/>
15						<input type="checkbox"/>
16						<input type="checkbox"/>
17						<input type="checkbox"/>
18						<input type="checkbox"/>
19						<input type="checkbox"/>
20						<input type="checkbox"/>
21						<input type="checkbox"/>

図 6-1

手順 1

「住戸タイプ名」 住戸タイプ名を入力

手順 2

「住戸床面積 [m²]」 住戸床面積を入力

手順 3

「主たる居室面積 [m²]」 リビング、ダイニング、キッチンの合計面積を入力

手順 4

「その他の居室面積 [m²]」 主たる居室以外の居室の合計面積を入力

※非居室面積は住戸床面積から主たる居室面積とその他の居室面積を引いた面積が自動算定されます。

※手順 2~4 の面積は計算式の入力も可能です。

手順 5

「ゲストルーム」 ゲストルームの場合にチェック

7 住戸構成図

7.1 住宅構成図

新規で作成した場合、階の作成画面が表示されます（図 7-1 参照）。

以降、図 7-1 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 7-1

手順 1

「地上階」「地下階」…………… 基本情報画面で設定した階数が表示されます。直接入力も可能です。

手順 2

「階の列数」…………… 作成したい列数を入力（初期値は「5」となっています）
※階によって列数が異なる場合には、住戸構成図の画面で変更できます。

手順 3

「階名追加文字」…………… 住戸構成図の階数表示に追加したい文字列を入力（初期値は「F」となっています）

手順 4

「階高（初期値）」…………… 階高を入力（単位：m）（初期値は「3.000」となっています）
※階によって階高が異なる場合には、住戸構成図の画面で変更できます。

手順 5

この条件で作成する をクリックすると住戸構成図が作成されます (図 7-2 参照)。

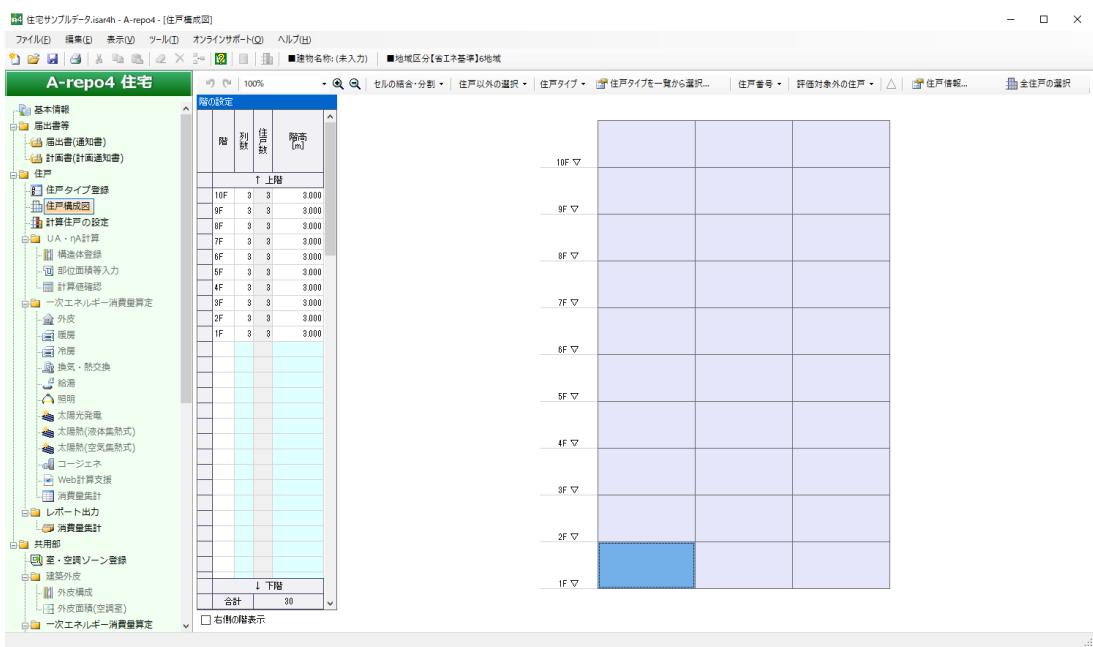


図 7-2

※住戸構成図の再作成について

住戸構成図を再作成したい場合は「ツール」→「住戸構成図の基本構成を再作成する」を選択すると図 7-1 の画面が表示され、再作成できます。

階	戸数	住戸数	階の設定	
			↑ 上階	↓ 下階
10F	3	3	3.000	
9F	3	3	3.000	
8F	3	3	3.000	
7F	3	3	3.000	
6F	3	3	3.000	
5F	3	3	3.000	
4F	3	3	3.000	
3F	3	3	3.000	
2F	3	3	3.000	
1F	4	4	3.100	

図 7-3

手順 6

「階」 階の作成画面で作成した内容が表示されます。手入力で変更可能です。

手順 7

「列数」 階の作成画面で作成した内容が表示されます。手入力で変更可能です。

手順 8

「階高」 階の作成画面で作成した内容が表示されます。手入力で変更可能です。ここで設定した階高が部位面積等入力画面の「高さ」に表示される「階高」に反映されます。

手順 9

「セルの結合・分割」 住戸構成図の結合（または分割）したいセルを選択し「セルを結合する」（または「セルを横方向に分割する」）を選択します（図 7-4 参照）。

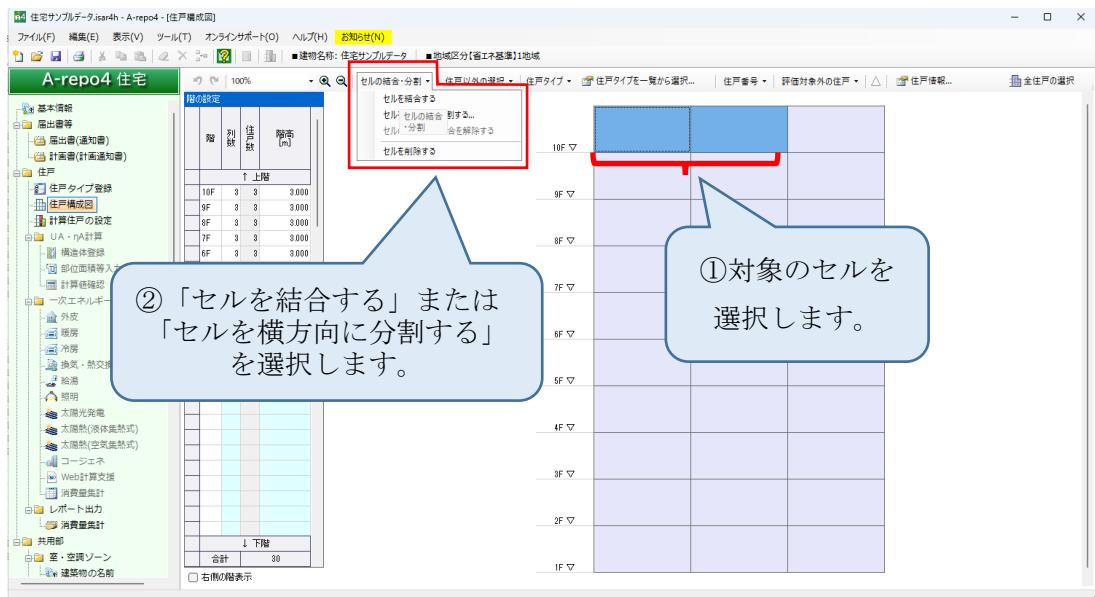


図 7-4

手順 10

「住戸以外の選択」 共用部等の住戸以外の室や屋外等の住戸の計算に関係しないセルを設定します（図 7-5、図 7-6 参照）。

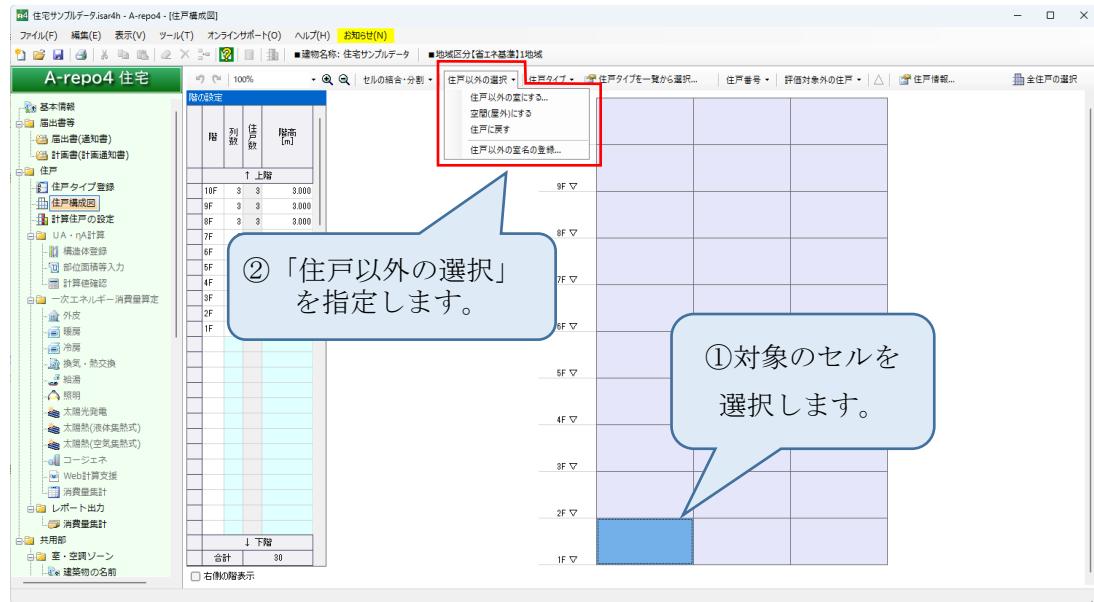


図 7-5

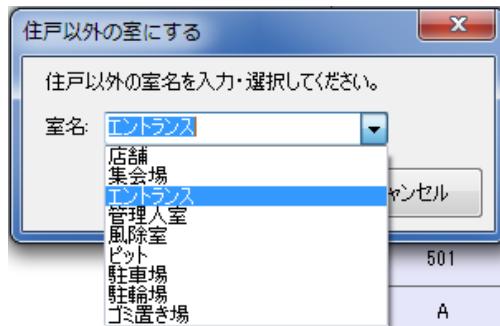


図 7-6

手順 11

「住戸タイプ」 住戸タイプ登録画面で入力したタイプ名を割り当てます。セルを選択しタイプ名を選択します（図 7-7 参照）。

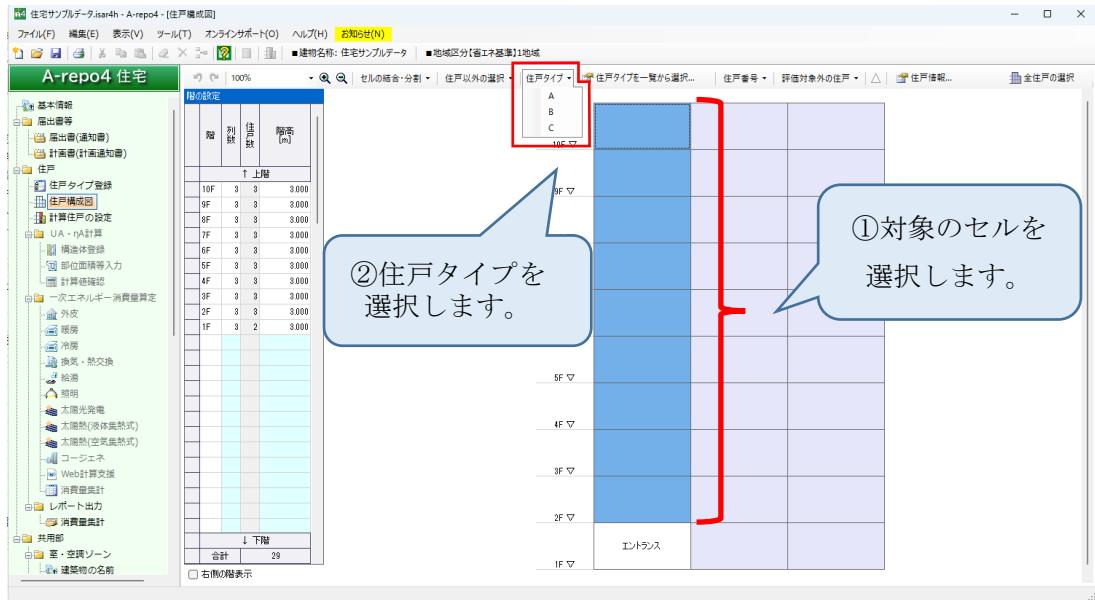


図 7-7

手順 12

「住戸番号」 住戸番号を割り当てます。セルを選択し「住戸番号の割り当て」を選択し、住戸番号の割当画面で開始住戸番号等を入力、選択し、住戸番号を割り当てます（図 7-8 参照）。「住戸番号の入力」で 1 住戸ずつの住戸番号の入力や修正も可能です。

※住戸番号は低炭素建築物認定申請で必要な情報です。



図 7-8



図 7-9

手順 13

「評価対象外の住戸」 評価対象外とする住戸がある場合には、評価対象外となるセルを選択し「住戸を評価対象外にする」を選択します（図 7-10 参照）。

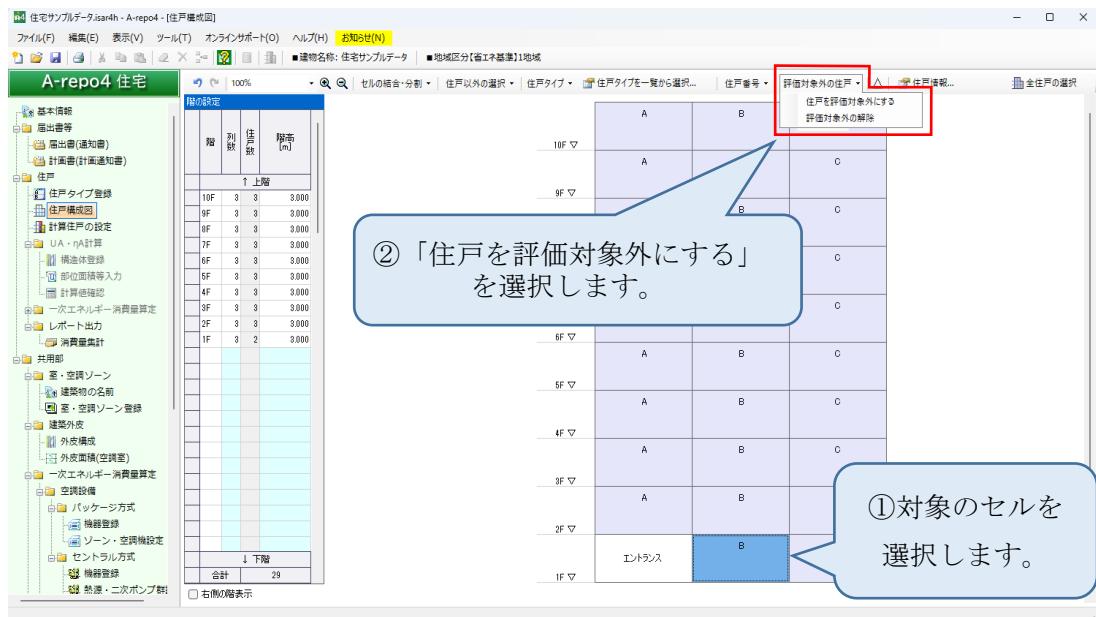


図 7-10

手順 14

「住戸情報」……………入力した住戸情報の確認、変更が行えます（図 7-11 参照）。



図 7-11

8 計算住戸の設定

8.1 計算住戸の設定

計算住戸の設定およびグルーピングを行います。

手順 1

「計算住戸の設定」 計算住戸のセルを選択し **★計算住戸に設定** ボタンをクリック（または計算住戸を右クリック）（図 8-1 参照）。セルを複数選択することで、複数同時に設定も行えます。



図 8-1

手順 2

住戸のグルーピングを行います。計算住戸と同条件の住戸のセルを選択し、 (グルーピングボタン) をクリックすることで、計算住戸と同じ凡例に着色され、グルーピングされます（図 8-2 参照）。

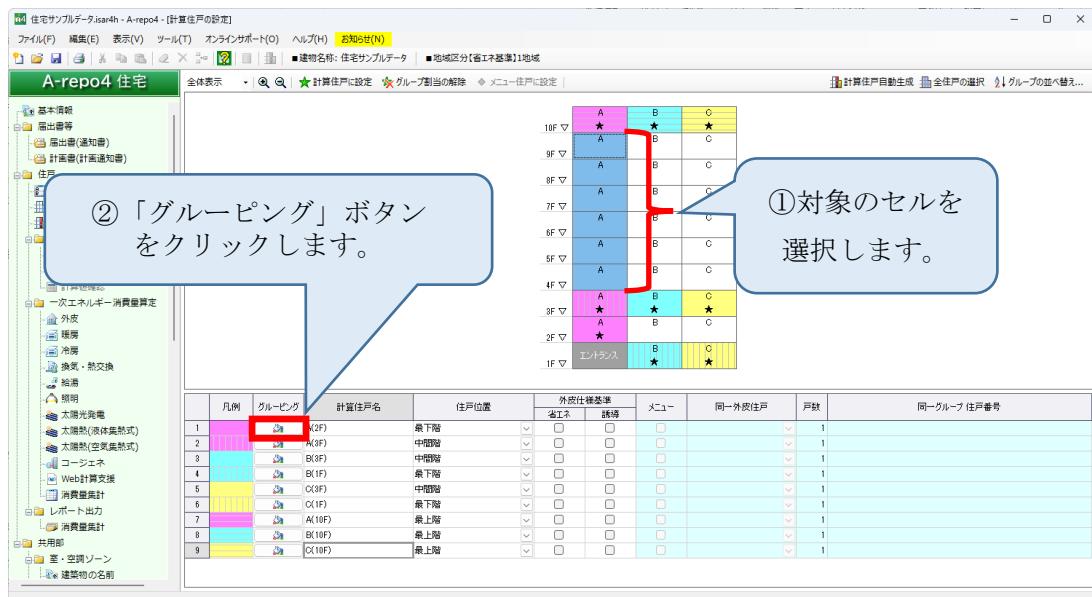


図 8-2

手順 3

「計算住戸名」 ……………… タイプ名+階数が表示されます。手入力も可能です。

手順 4

「住戸位置」 ……………… 最上階、中間階、最下階が自動判別され表示されます。手入力も可能です。

その他の機能

■計算住戸の追加

追加したい住戸を選択し、「計算住戸に設定」（または計算住戸を右クリックし「新しい計算住戸に設定」）します。

■同グループ内の計算住戸の変更

計算住戸とした住戸を右クリックし「計算住戸に変更」を選択することで、同じグループ内の計算住戸が移動します（図 8-3 参照）。

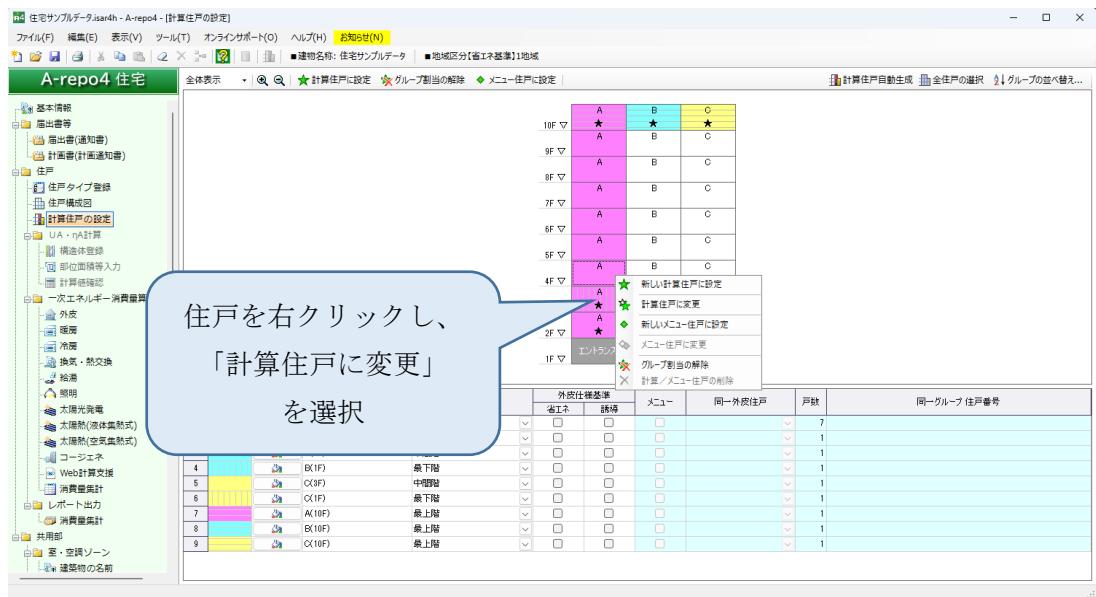


図 8-3

■グループ割当の解除

グループ割当の解除をしたい住戸を選択し、 グループ割当の解除 ボタンをクリック（または住戸を右クリックし「グループ割当の解除」を選択）します。

■計算住戸の自動生成

計算住戸自動生成 ボタンをクリックすると、計算住戸の設定およびグルーピングが自動生成されます（住戸タイプ毎に最下階、中間階、最上階住戸が計算住戸に設定され、残りの中間階が計算住戸とした中間階にグルーピングされます）。

■グループの並べ替え

グループの並べ替え… ボタンをクリックすると、計算住戸グループの並び替え画面が表示されます

（図 8-4 参照）。行を選択し、 上へ移動 下へ移動 ボタンで上下に移動します。また ボ

タンをクリックすると、タイプ名順、階数上→下の順に自動で並び替わります。

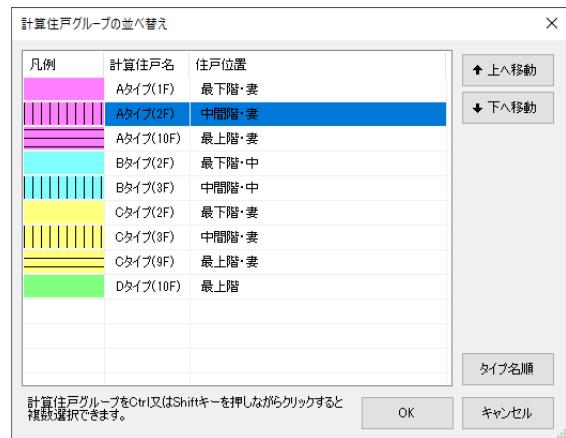


図 8-4

9 UA・ η A計算

9.1 構造体登録

計算住戸の各構造体の登録を行います。

9.1.1 開口部

1) 窓・框ドア

図 9-1-1 に示す窓を事例として、入力手順を記載します。

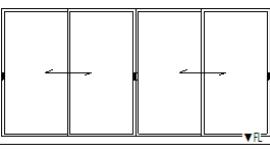
符号	使用箇所	Aタイプ LD		
		形式	AW1	
姿図				
W×H		3000×1800		
材料		アルミ電解着色		
ガラス		FL6+A6+FL5		

図 9-1-1-1

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック（図 9-1-1-2 参照）

[本事例では「AW1」と入力]



開口部名	部位 使用	ドア/窓	面積 [m ²]	面積 [m ²]	取付 熱遮 断熱 方法	日除 け種類	日除 け [m ²]	日除 け [m ²]	建具仕様	ガラス仕様 (熱遮断)
1 AW1										
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										

図 9-1-1-2

以降、図 9-1-1-3 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

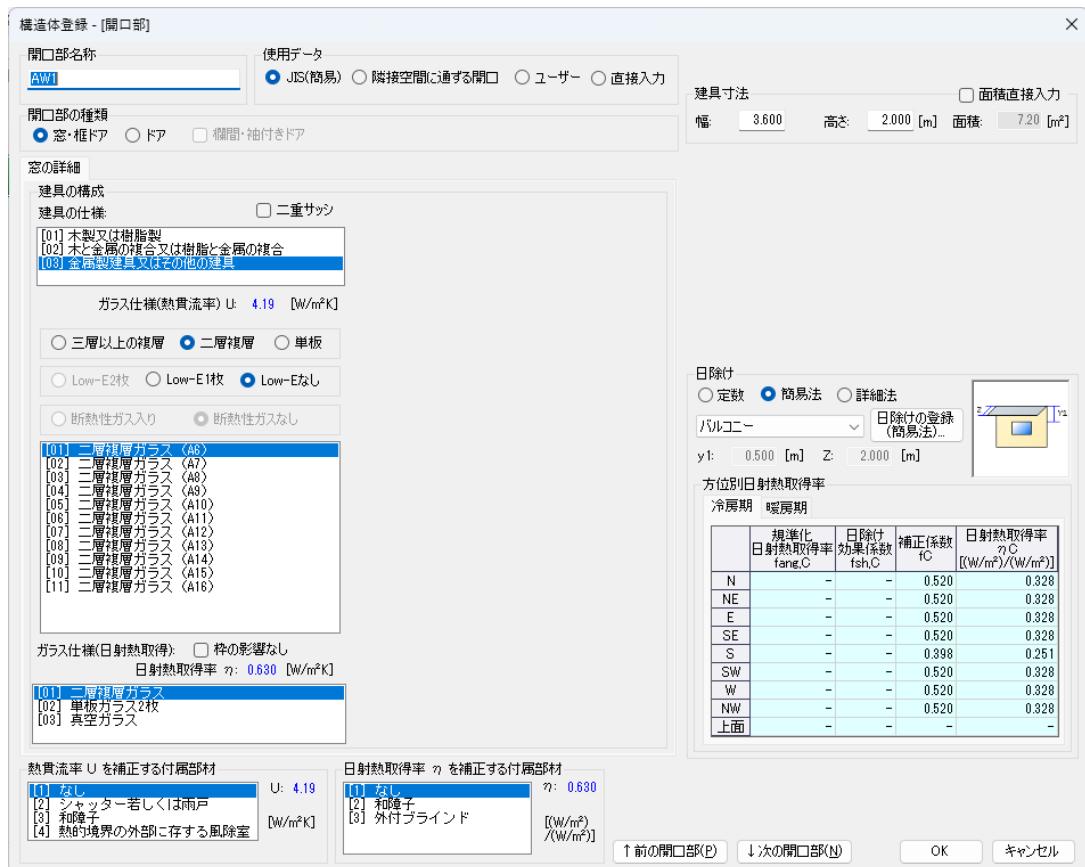


図 9-1-1-3

手順 2

「使用データ」 「JIS (簡易)」「隣接空間に通ずる開口」「ユーザー」「直接入力」のいずれかにチェック
[JIS (簡易) にチェック]

手順 3

「開口部の種類」 「窓・框ドア」または「ドア」にチェック
[窓・框ドアにチェック]

手順 4

「二重サッシ」にチェック
なし

手順 5

「建具仕様」 リストから選択
[金属製建具又はその他の建具を選択]

手順 6

「ガラス仕様 (熱貫流)」 「二層複層」、「Low-Eなし」をチェック
[二層複層にチェック]
[Low-Eなしにチェック]

手順 7

「ガラス仕様 (熱貫流)」 リストから選択
[二層複層ガラス (A6) を選択]

手順 8

「ガラス仕様（日射熱取得）」 …… リストから選択

[二層複層ガラスを選択]

手順 9

「熱貫流 U を補正する付属部材」

…………… リストから選択

建築的に設置される付属部材のみが該当します。

[なしを選択]

手順 10

「日射熱取得 η を補正する付属部材」

…………… リストから選択

建築的に設置される付属部材のみが該当します。

[なしを選択]

手順 11

「建具寸法」 …… 幅、高さを数値で入力（単位：m）

[幅：3.000m、高さ：1.800m を入力]

手順 12

「日除け」 …… 該当する日除けを登録または選択します。

※2) 日除けの登録方法を参照（手順 13 で「簡易法」を選択した場合に使用できる日除けの登録方法です。「詳細法」で計算する場合は、「9.1.6 日除け」の登録方法を参照してください。）

手順 13

方位別日射熱取得率「定数」、「簡易法」または「詳細法」にチェック

[簡易法を選択]

2) 日除けの登録方法

図 9-1-1-4 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 9-1-1-4

手順 1

「日除け名称」 任意の文字列を入力

※日除け名称は帳票には出ません。

手順 2

「y1」、「z」を数値で入力 (単位 : m)

手順 3

該当する日除け記号を選択した状態 [閉じる] をクリック

※移動したい行を選択した状態で 前へ移動 後へ移動 ボタンをクリックすることで前後に移動

します。複数行をまとめて移動も可能です。

3) ドア

図 9-1-1-5 に示すドアを事例として、入力手順を記載します。

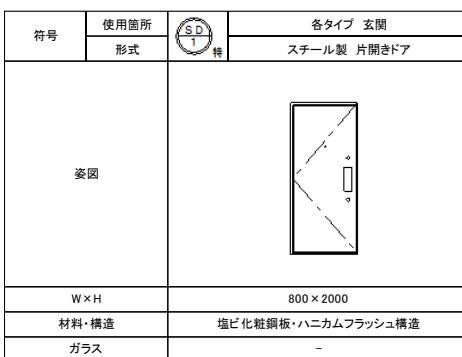


図 9-1-1-5

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、[...ボタン]をクリック (図 9-1-1-6 参照)

[本事例では「SD1」と入力]



図 9-1-1-6

以降、図 9-1-1-7 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

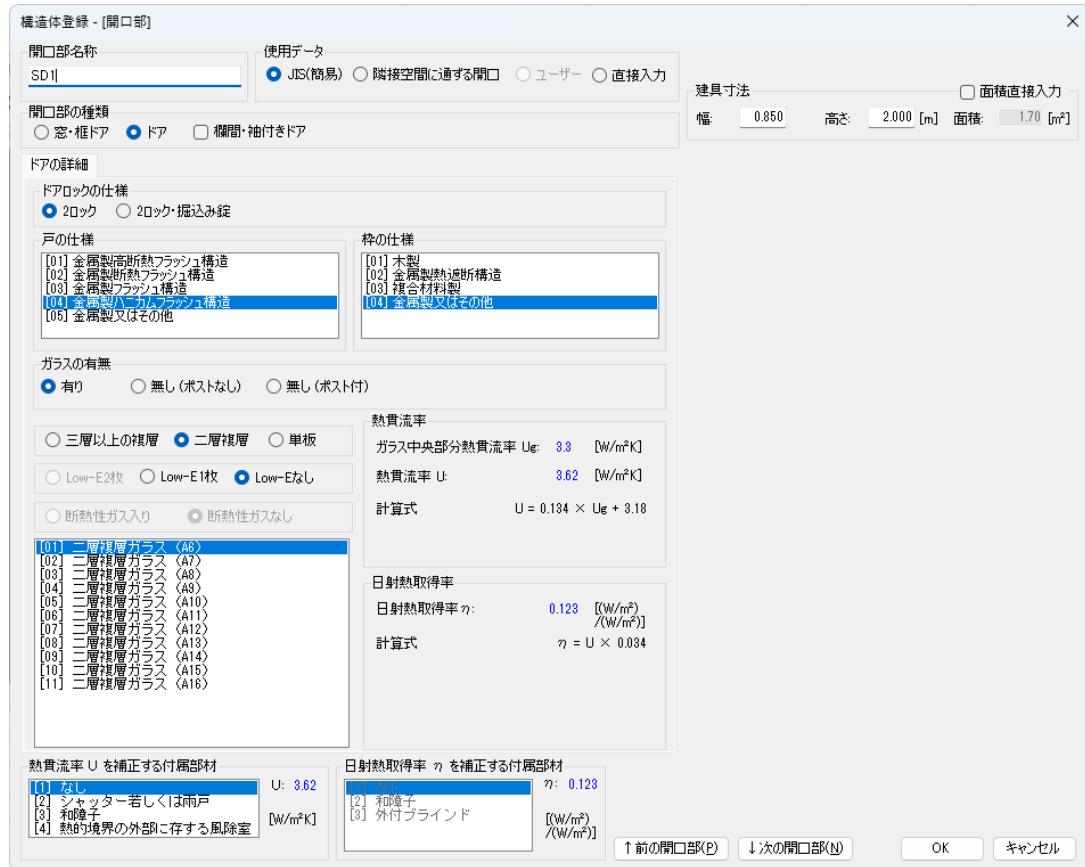


図 9-1-1-7

※Ver4.0.8より、開口部の種類で「ドア」を選択した場合でも日除け入力欄が表示されるようになりました。

※Ver4.0.56までの物件データの場合、Ver4.0.57以降で保存するまでは、開口部の種類で「ドア」を選択した場合でも日除け入力欄が表示されます。Ver4.0.57以降は表示されません。

手順 2

「使用データ」 「JIS (簡易)」「隣接空間に通ずる開口」「ユーザー」「直接入力」のいずれかにチェック
[JIS (簡易) をチェック]

手順 3

「開口部の種類」 「窓・框ドア」または「ドア」にチェック
[ドアにチェック]

手順 4

「建具仕様」 リストから選択
[枠：金属製又はその他 戸：金属製ハニカムフラッシュ構造を選択]

手順 5

「ガラスの有無」 「有り」「無し (ポストなし)」「無し (ポスト付)」のいずれかにチェック

[無し（ポストなし）を選択]

手順 6

「建具寸法」 幅、高さを数値で入力（単位：m）

[幅：0.800m、高さ：2.000m を入力]

手順 7

「熱貫流 U を補正する付属部材」

..... リストから選択

建築的に設置される付属部材のみが該当します。

[なしを選択]

9.1.2 屋根、天井、外壁、床（外気に接する）、床（その他）

1) RC 造等

図 9-1-2-1 に示す外壁部材を事例として入力手順を記載します。

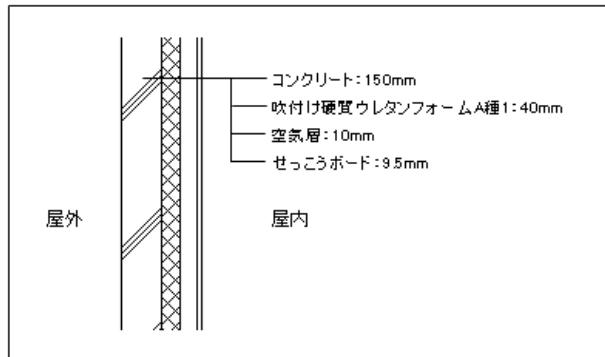


図 9-1-2-1

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック（図 9-1-2-2 参照）

[本事例では「OW1」と入力]

部材名	熱貫流率 U [W/m ² K]	日射熱 遮断率 [W/m ²]	外気側表面	温度差 係数 [W/m ²]	日射 遮断 率	部材 使用	印刷
OW1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

図 9-1-2-2

以降、図 9-1-2-3 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

構造体登録 - [外壁]

部位名	外気側表面	Rsi	Rse	温度差係数	日射無し	適用構造・断熱工法
0W1	外気	0.11	0.04	1.0	<input type="checkbox"/>	RC造等
建材番号	建材名称	熱伝導率 λ [W/(m·K)]	厚さ d [mm]	d/λ [m ² ·K/W]	画像番号	
屋外 1	41 コンクリート	1.600	1.600			
2						
3						
4						
室内 5						
6						
7						
8						
9						
10						

熱貫流率 $U_n = 1/(Rsi + \sum(d/\lambda) + Rse)$
 平均熱貫流率 $UA = \sum(U_n \times A_n)$
 日射熱取得率 $\eta = 0.034 \times U$

$\sum(d/\lambda)$ [m ² K/W]	
熱貫流率 [W/m ² K]	
面積比 A_n	1.000
熱貫流率 U [W/(m ² K)]	0.00
日射熱取得率 η [(W/m ²)/(W/m ²)]	0.000

↑ 前の外壁(P) ↓ 次の外壁(N) 閉じる キャンセル

図 9-1-2-3

手順 2

「外気側表面」 「外気」 または「外気以外（通気層）」を選択
 [外気を選択]

手順 3

「温度差係数」 「1.0」 または「0.7」を選択
 [1.0を選択]

手順 4

「適用構造・断熱工法」 該当する構造を選択

※初期値は基本情報で登録した構造を選択した状態になって
 います。

手順 5

「番号」 部材番号を入力（図 9-1-2-3 参照）、またはダブルクリックする事でリスト（図 9-1-2-4 参照）が表示されるので部材を選択
 カタログ等から部材の熱伝導率を把握している場合には、部材番号【000】（直接入力）を選択し手順 6 にて厚さとともに熱伝導率（単位：W/(m·K)）を入力

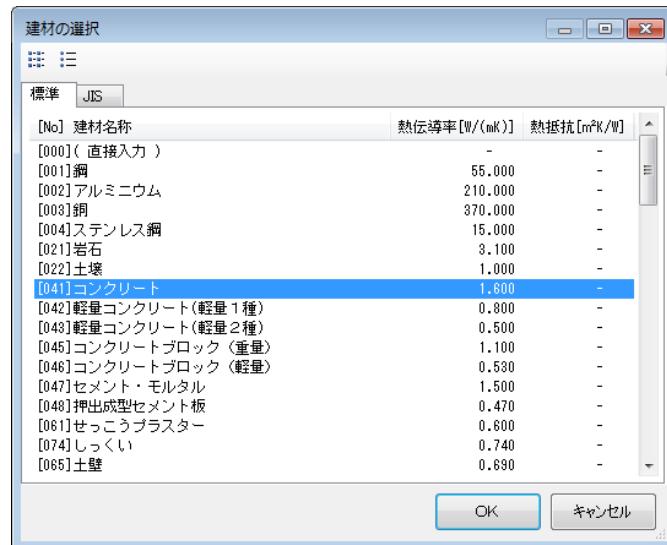


図 9-1-2-4

手順 6

「厚さ」 部材の厚さを数値で入力（単位：mm）

[入力事例は図 9-1-2-5 参照]

図 9-1-2-5

2) 木造（簡略計算法）

簡易計算法は一般部（断熱材を含む断面）、その他（断熱材が途切れる熱橋部の断面）について、それぞれ材料・厚さを入力し、面積比率を用いて部位の熱貫流率を求める方法です。

図 9-1-2-6 に示す外壁部材（木造軸組造）を事例として入力手順を記載します。

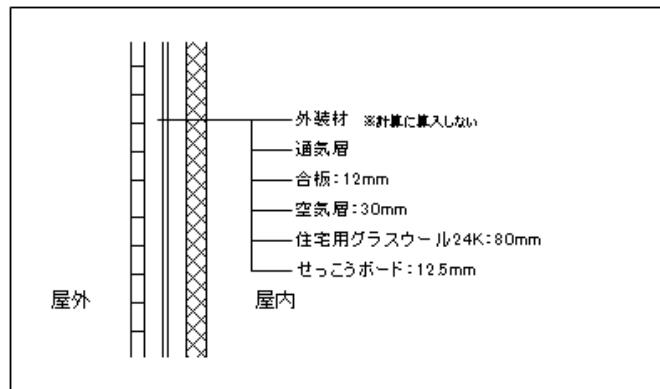


図 9-1-2-6

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、[]ボタンをクリック（図 9-1-2-7 参照）

〔「OW1」と入力〕

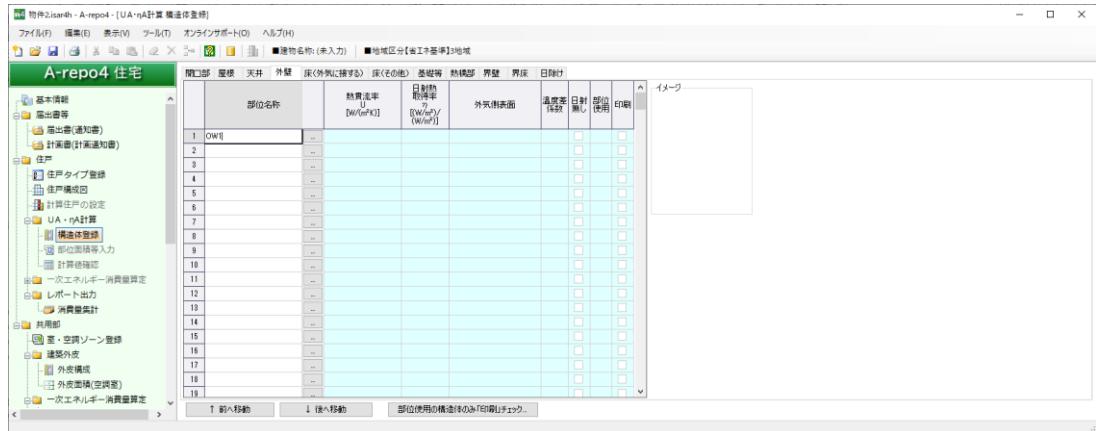


図 9-1-2-7

以降、図 9-1-2-8 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

構造体登録 - [外壁]

部位名称		外気側表面	Rsi	Rse	温度差係数	日射無し	適用構造・断熱工法	木造 工法詳細
OW1		外気以外(通気層)	0.11	0.11	1.0	<input type="checkbox"/>	木造軸組	<input checked="" type="radio"/> 簡略計算法 <input type="radio"/> 詳細計算法
屋外	1	建材名称 外気側表面	熱伝導率 [W/(m²K)]	外 側 断 熱 材 厚 さ d [mm]	d/λ [m²·K/W]	面積比		
	2					一般部	その他	
	3					一般部	その他	
	4					一般部	その他	
	5					一般部	その他	
	6					一般部	その他	
	7					一般部	その他	
	8					一般部	その他	
	9					一般部	その他	
	10					一般部	その他	

热橋部が外張断熱材を貫通する

熱貫流率 $U_n = 1 / (R_{si} + \sum (d/\lambda) + R_{se})$
平均熱貫流率 $U_A = \sum (U_n \times A_n)$

日射熱取得率 $\eta = 0.034 \times U$

補正前熱貫流率 $[W/m^2K]$

面積比 A_n 1.000

熱貫流率 $U [W/(m^2K)]$ 0.00

日射熱取得率 $\eta [W/m^2]/(W/m^2)$ 0.000

前の外壁(P) 次の外壁(N) 閉じる キャンセル

図 9-1-2-8

手順 2

「外気側表面」 「外気」または「外気以外（通気層）」を選択
[外気以外（通気層）を選択]

手順 3

「温度差係数」 「1.0」または「0.7」を選択
[1.0を選択]

手順 4

「適用構造・断熱工法」 該当する構造を選択

※初期値は基本情報で登録した構造を選択した状態になって
います。

手順 5

「木造 工法詳細」 「簡略計算法」または「詳細計算法」を選択
[簡略計算法①にチェックし、面積比をクリック]

手順 6

熱橋面積比の選択画面が表示されるので、該当する断熱工法を選択し OK をクリック（図 9-1-2-9 参照）すると、一般部とその他の部分の面積比が表示されます（図 9-1-2-10 参照）
[柱・間柱間に断熱する場合を選択]

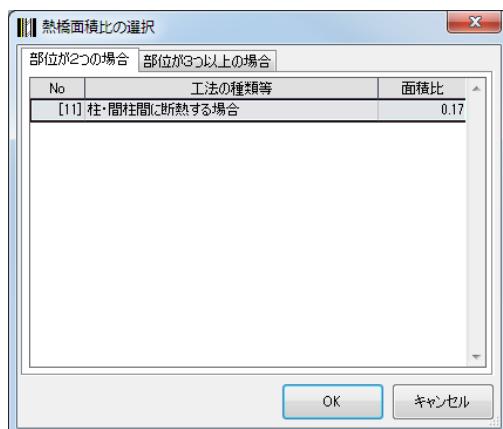


図 9-1-2-9

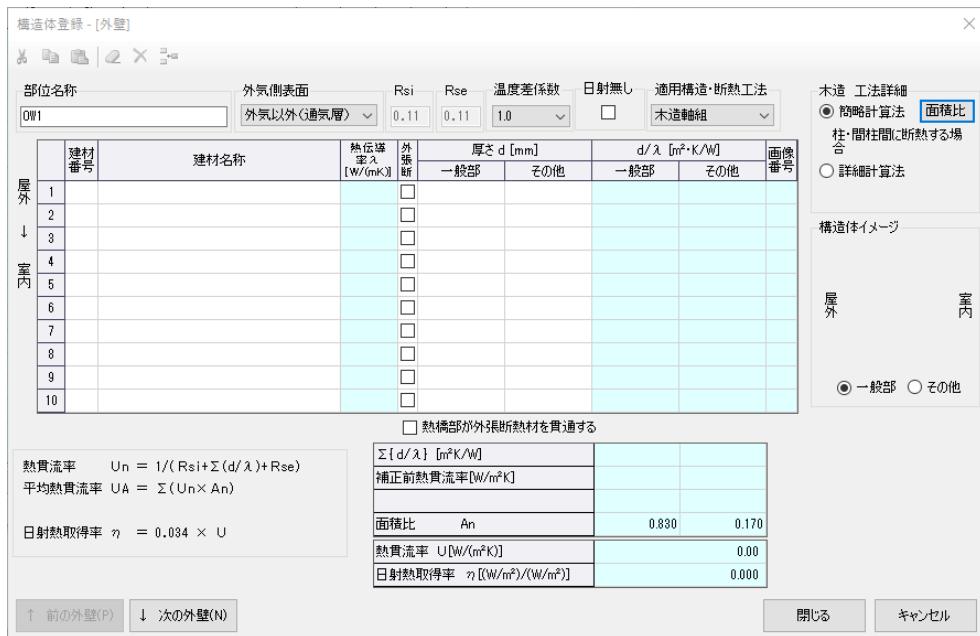


図 9-1-2-10

手順 7

「番号」 部材番号を入力 (図 9-1-2-3 参照)、またはダブルクリックする事でリスト (図 9-1-2-11 参照) が表示されるので部材を選択

カタログ等から部材の熱伝導率を把握している場合には、部材番号【000】(直接入力)を選択し**手順 8**にて厚さとともに熱伝導率 (単位: W/(m·K)) を入力

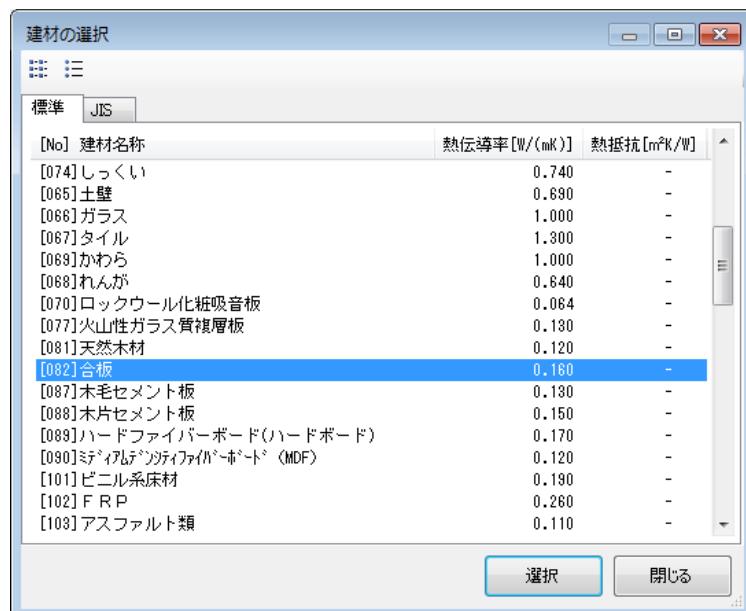


図 9-1-2-11

手順 8

「厚さ」 部材の厚さを数値で入力 (単位: mm)

[入力事例は図 9-1-2-12 参照]

構造体登録 - [外壁]

外壁 | 次の外壁(N) | 前の外壁(P)

部位名称		外気側表面	Rsi	Rse	温度差係数	日射無し	適用構造・断熱工法
DW1		外気以外(遮気層)	0.11	0.11	1.0	<input type="checkbox"/>	木造軸組

屋外 ↓	建材 番号	建材名称	熱伝導 率 [W/(mK)]	厚さ d [mm]		d/λ [m ² ·K/W]		画像 番号
				一般部	その他	一般部	その他	
1	82	合板	0.160	<input type="checkbox"/>	12.0	12.0	0.075	0.075
2	310	密閉空気層	-	<input type="checkbox"/>	30.0	30.0	0.090	0.090
3	124	ガラスウール断熱材 24K相当	0.038	<input type="checkbox"/>	80.0		2.105	
4	81	天然木	0.120	<input type="checkbox"/>		80.0		0.667
5	402	せっこうボードGB-RGB-D,GB-L,GB-NC	0.221	<input type="checkbox"/>	12.5	12.5	0.057	0.057
6				<input type="checkbox"/>				
7				<input type="checkbox"/>				
8				<input type="checkbox"/>				
9				<input type="checkbox"/>				
10				<input type="checkbox"/>				

热構部が外張断熱材を貫通する

Σ(d/λ) [m ² ·K/W]	2.327	0.889
補正前熱貫流率 [W/m ² K]	0.39	0.90
面積比 An	0.830	0.170
熱貫流率 U [W/(m ² K)]	0.48	
日射熱取得率 η [(W/m ²)/(W/m ²)]	0.016	

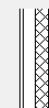
木造工法詳細

簡略計算法

柱・間柱間に断熱する場合

詳細計算法

構造体イメージ



面積比

屋外

室内

一般部

その他

図 9-1-2-12

3) 木造 (詳細計算法)

詳細計算法は断面が異なる部位ごとに材料・厚さおよび面積比率を入力し、面積加重平均により部位の熱貫流率を求める方法です。

[入力事例は図 9-1-2-13 参照]

構造体登録 - [外壁]

↑ 前の外壁(P) ↓ 次の外壁(N)

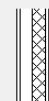
部位名称	外気側表面	Rsi	Rse	温度差係数	日射無し	適用構造・断熱工法
DW1	外気	0.11	0.04	1.0	<input type="checkbox"/>	木造軸組

木造 工法詳細

簡略計算法 面積比

詳細計算法

構造体イメージ

屋外  室内 

④ 一般部 その他1

⑤ せっこうボードGB-RGB-D,GB-LGB-NC その他2

屋外 ↓ 室内	建材 番号	建材名称	熱伝導 率λ [W/(mK)]	厚さ d [mm]			画像 番号
				外 張 断 熱 材	一般部	その他1	
1	82	合板	0.160	<input type="checkbox"/>	12.0	12.0	12.0
2	310	密閉空気層	-	<input type="checkbox"/>	30.0	30.0	
3	81	天然木材	0.120	<input type="checkbox"/>			30.0
4	81	天然木材	0.120	<input type="checkbox"/>		80.0	80.0
5	124	グラスウール断熱材 24K相当	0.038	<input type="checkbox"/>	80.0		
6	402	せっこうボードGB-RGB-D,GB-LGB-NC	0.221	<input type="checkbox"/>	12.5	12.5	12.5
7				<input type="checkbox"/>			
8				<input type="checkbox"/>			
9				<input type="checkbox"/>			
10				<input type="checkbox"/>			

热構部が外張断熱材を貫通する

Σ{d/λ} [m ² K/W]	2.327	0.899	1.049		
補正前熱貫流率 [W/m ² K]	0.40	0.96	0.83		
面積比 An	0.800	0.150	0.050	<input type="checkbox"/>	
熱貫流率 U[W/(m ² K)]				0.51	
日射熱取得率 η [(W/m ²)/(W/m ²)]				0.017	

閉じる

キャンセル

図 9-1-2-13

9.1.3 基礎等

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック（図 9-1-3-1 参照）

[「土間床」と入力]



図 9-1-3-1

以降、図 8-1-3-2 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

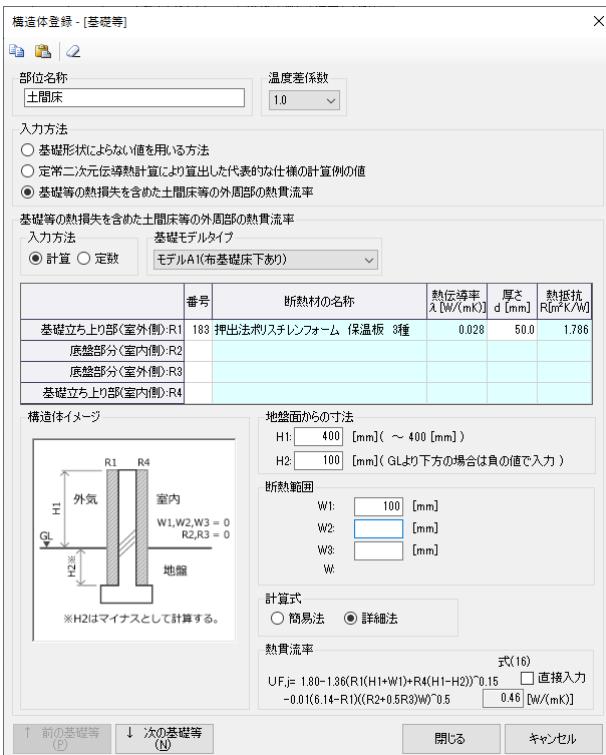


図 9-1-3-2

手順 2

「入力方法」 「基礎形状によらない値を用いる方法」、「定常二次元伝導熱

計算により算出した代表的な仕様の計算例の値」または「基礎等の熱損失を含めた土間床等の外周部の熱貫流率」を選択
[基礎等の熱損失を含めた土間床等の外周部の熱貫流率を選択]

手順 3

「基礎等の熱損失を含めた土間床等の外周部の熱貫流率」 – 「入力方法」
..... 「計算」または「定数」を選択
[計算を選択]

手順 4

「基礎モデルタイプ」 リストから選択
[モデル B(べた基礎タイプ)を選択]

手順 5

「温度差係数」 「1.0」、「0.7」または「0.15」(地域により 0.05)を選択
[1.0を選択]

手順 6

図に該当する断熱材がある箇所について、断熱材の種類・厚さを入力します。
「番号」 部材番号を入力(図 9-1-3-2 参照)、またはダブルクリックする事でリストが表示されるので部材を選択

手順 7

「地盤面からの寸法」 図に示された高さ H1, H2 を入力(単位: mm)

手順 8

「計算式」 「簡易法」または「詳細法」にチェック

9.1.4 熱橋部

1) RC 造(新)

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック (図 9-1-4-1 参照)

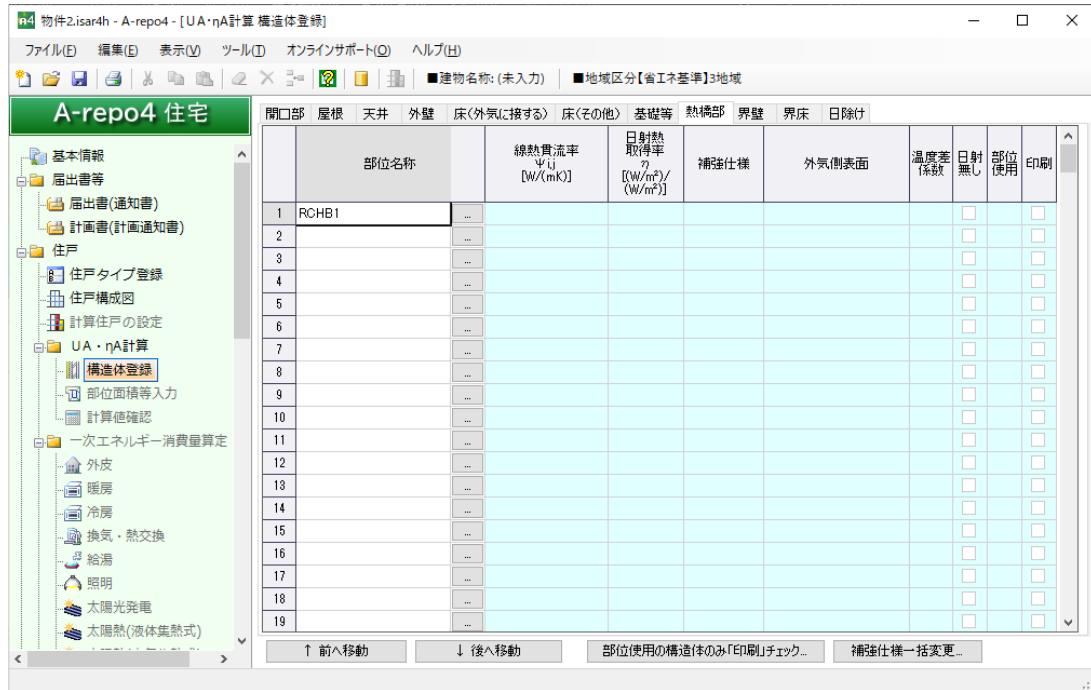


図 9-1-4-1

以降、図 9-1-4-2 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

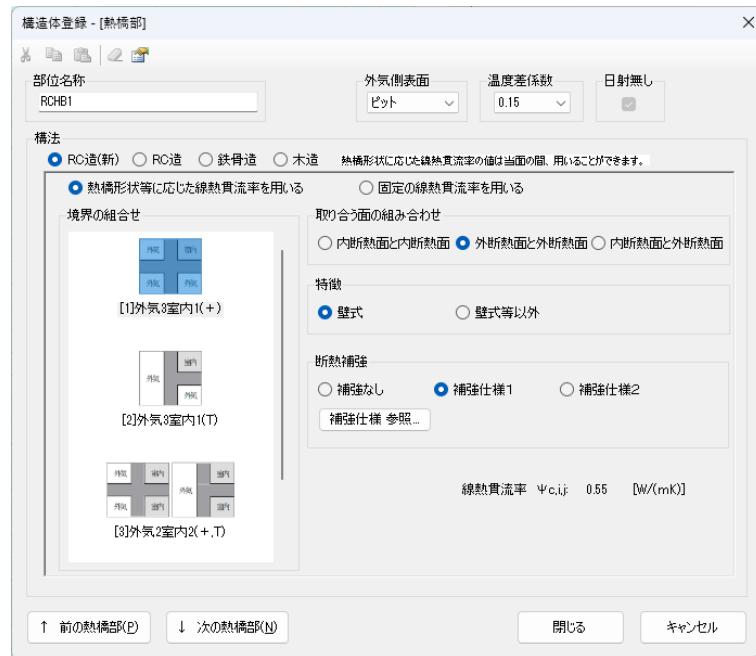


図 9-1-4-2

手順 2

「外気側表面」 リストから選択

手順 3

「温度差係数」 **手順 2** の外気側表面を選択することで「1.0」「0.7」「0.15」が連動で選択されますが、変更も可能です。

手順 4

「構法」 「RC 造(新)」をチェック

手順 5

「熱橋形状等に応じた線熱貫流率を用いる」

「固定の線熱貫流率を用いる」 「熱橋形状等に応じた線熱貫流率を用いる」を選択すると組み合わせにより線熱貫流率が表示されます。

「固定の線熱貫流率を用いる」を選択すると固定値 3.35[W/(mk)]が線熱貫流率に表示されます。

手順 6

「境界の組合せ」 境界の組合せイメージから図を選択

手順 7

「取り合う面の組み合わせ」 取り合う面の組み合わせをチェック

手順 8

「特徴」 特徴をチェック

手順 9

「断熱補強」 断熱補強を選択

※ 「補強仕様参照」ボタンをクリックすると「補強仕様 1」、「補強仕様 2」とするために必要な断熱補強の範囲と熱抵抗値が参照できます。

手順 10

「線熱貫流率 $\Psi_{c,i,j}$ 」 選択した組み合わせにより、線熱貫流率が表示されます。

1) RC 造**手順 1**

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック (図 9-1-4-3 参照)

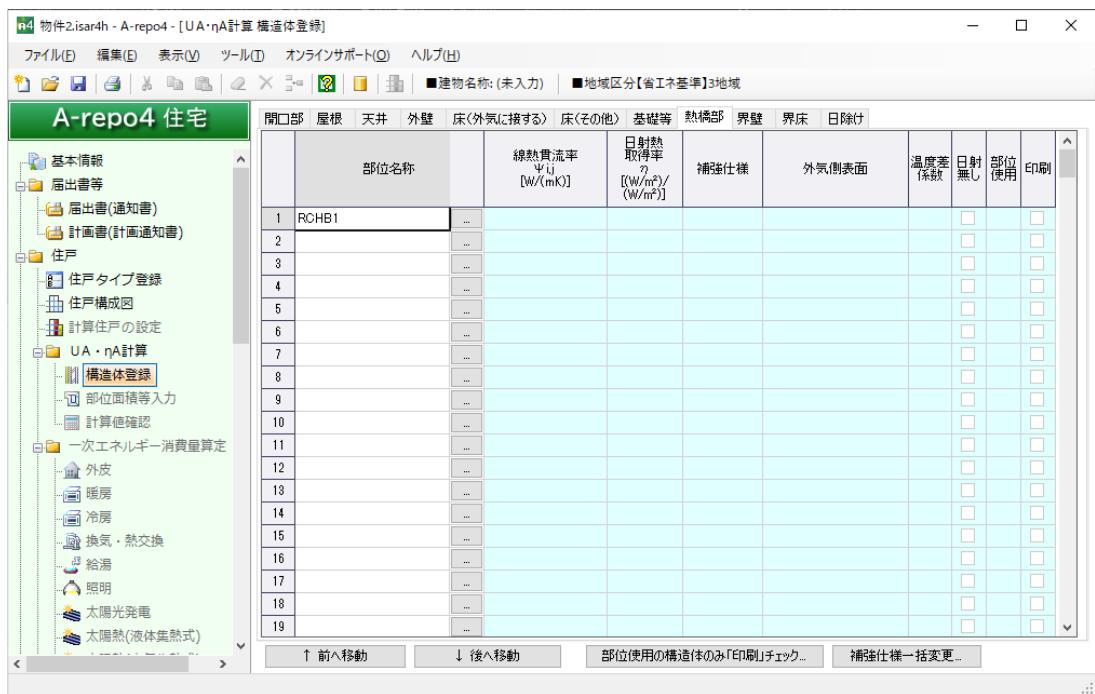


図 9-1-4-3

以降、図 9-1-4-4 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 9-1-4-4

手順 2

「外気側表面」 リストから選択

手順 3

「温度差係数」 手順 2 の外気側表面を選択することで「1.0」「0.7」「0.15」が連動で選択されますが、変更も可能です。

手順 4

「構法」 「RC 造」をチェック

手順 5

「境界の組合せ」 境界の組合せイメージから図を選択

手順 6

「取り合う面の組み合わせ」 取り合う面の組み合わせをチェック

手順 7

「特徴」 特徴をチェック

手順 8

「断熱補強」 断熱補強を選択

※ 「補強仕様参照」ボタンをクリックすると「補強仕様 1」、「補強仕様 2」とするために必要な断熱補強の範囲と熱抵抗値が参照できます。

手順 9

「線熱貫流率 $\Psi_{c,i,j}$ 」 選択した組み合わせにより、線熱貫流率が表示されます。

2) RC 造(旧)

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック (図 9-1-4-5 参照)



部位名	線熱貫流率 [W/m]	日射熱 貫流率 [W/m]	補強仕様	外気側表面	温度差 [度]	日射率 [%]	部位 使用
1 RSL1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

図 9-1-4-5

以降、図 9-1-4-6 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 9-1-4-6

※Ver.4.0.60 で新規作成時から構法 RC 造(旧)は表示されません。

手順 2

「外気側表面」 リストから選択

手順 3

「温度差係数」 **手順 2** の外気側表面を選択することで「1.0」「0.7」「0.15」が連動で選択されますが、変更も可能です。

手順 4

「構法」 「RC 造(旧)」をチェック

手順 5

「断熱」「形状」「突出形状」 リストから選択することで熱橋部のイメージ画像が絞られます。

手順 6

「熱橋部イメージ」 热橋部イメージから図を選択

手順 7

「断熱補強」 リストから選択

※ 「補強仕様参照」ボタンをクリックすると「補強仕様 1」、「補強仕様 2」とするために必要な断熱補強の範囲と熱抵抗値が参照できます。

手順 8

「線熱貫流率 $\Psi_{c,i,j}$ 」 選択した熱橋部のイメージと断熱補強により、線熱貫流率が表示されます。

3) 鉄骨造

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック (図 9-1-4-7 参照)



図 9-1-4-7

以降、図 9-1-4-8 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 9-1-4-8

手順 2

「外気側表面」 リストから選択

手順 3

「温度差係数」 外気側表面を選択することで「1.0」「0.7」「0.15」が連動で選択されますが、変更も可能です。

手順 4

「構法」 「鉄骨造」をチェック

手順 5

「部位」 「柱」または「梁」をチェック

手順 6

「番号」 部材番号を入力（図 9-1-4-8 参照）、またはダブルクリックする事でリスト（図 9-1-4-9 参照）が表示されるので部材を選択
カタログ等から部材の熱伝導率を把握している場合には、部材番号【000】（直接入力）を選択し厚さとともに熱伝導率（単位：W/（m・K））を入力

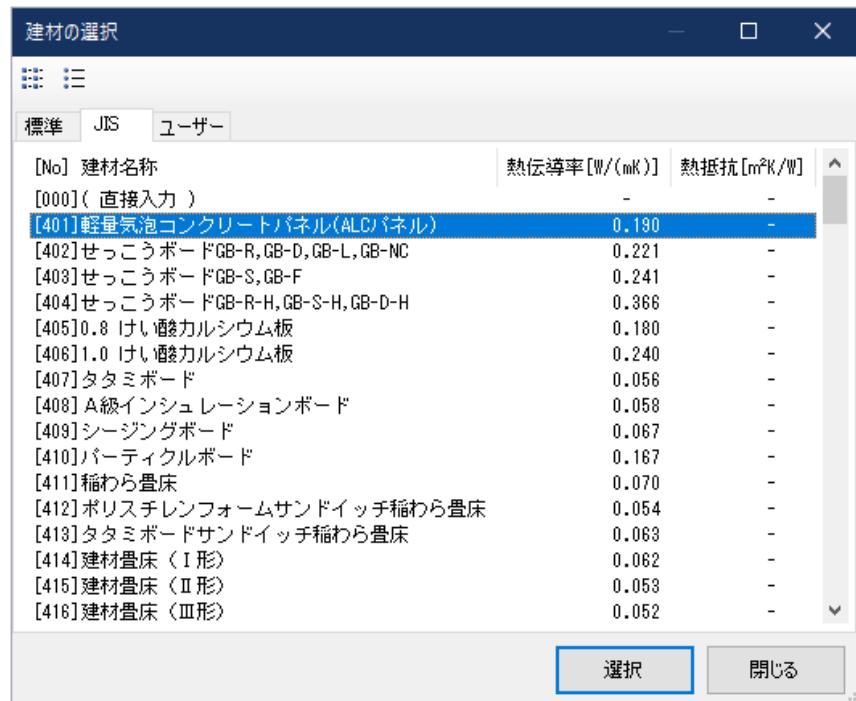


図 9-1-4-9

手順 7

「厚さ」 部材の厚さを数値で入力（単位：mm）

手順 8

「見付け寸法」 見付け寸法を数値で入力（単位：mm）

手順 9

「線熱貫流率 $\Psi_{c,i,j}$ 」 選択した熱橋部のイメージ、断熱補強により、線熱貫流率が表示されます。

4) 木造

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック（図 9-1-4-10 参照）

図 9-1-4-10

以降、図 9-1-4-11 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

図 9-1-4-11

手順 2

「外気側表面」 リストから選択

手順 3

「温度差係数」 **手順 2** の外気側表面を選択することで「1.0」「0.7」「0.15」が連動で選択されますが、変更も可能です。

手順 4

「構法」 「木造」をチェック

手順 5

「熱橋部種類」 リストから選択

手順 6

「線熱貫流率 Ψ 」……………選択した熱橋部により、線熱貫流率が表示されます。

9.1.5 界壁、界床

界壁を事例として入力手順を記載します。

1) 界壁

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、

ボタンをクリック (図 9-1-5-1 参照)

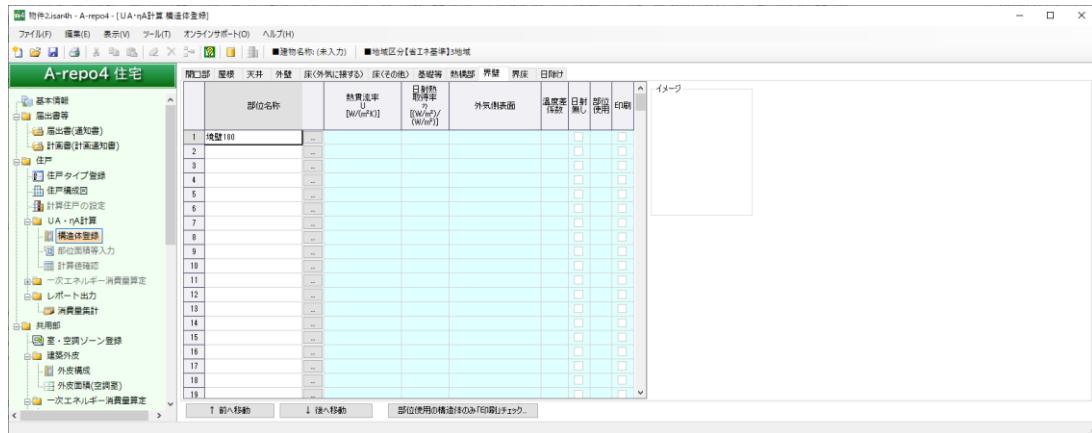


図 9-1-5-1

以降、図 9-1-5-2 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

図 9-1-5-2

手順 2

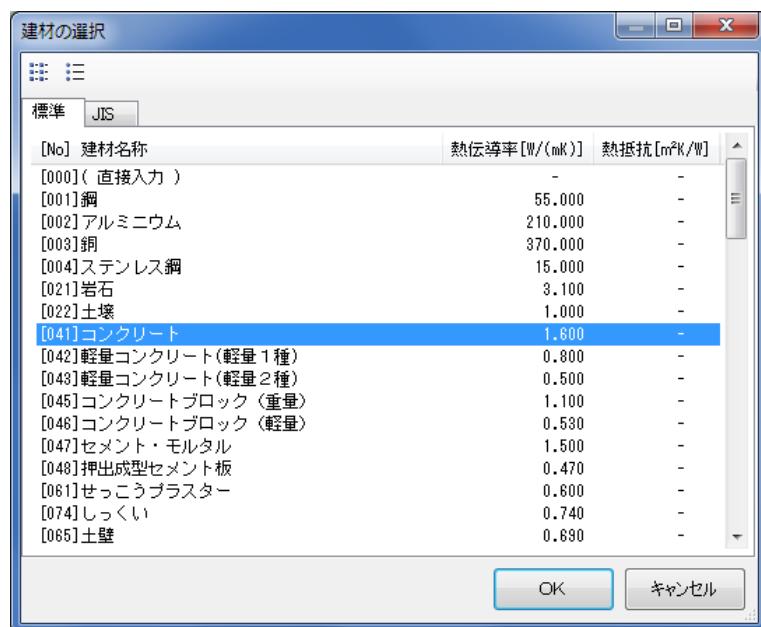
※界壁の場合、「外気側表面」は「隣接住戸等（横）」、「温度差係数」は省エネルギー基準地域区分が 1～3 地域の場合「0.05」、4～8 地域の場合は「0.15」が設定された状態になります。「温度差係数」は省エネルギー基準地域区分に応じた値の他、「0.0」を選択することができます。

※界床の場合、「外気側表面」は「隣接住戸等（上階）」または「隣接住戸等（下階）」を選択。「温度差係数」は省エネルギー基準地域区分が 1～3 地域の場合「0.05」、4～8 地域の場合は「0.15」

が設定された状態になります。「温度差係数」は省エネルギー基準地域区分に応じた値の他、「0.0」を選択することができます。

手順 3

「番号」 部材番号を入力（図 9-1-5-2 参照）、またはダブルクリックする事でリスト（図 9-1-5-3 参照）が表示されるので部材を選択
カタログ等から部材の熱伝導率を把握している場合には、部
材番号【000】（直接入力）を選択し手順 4 にて厚さとともに
熱伝導率（単位：W/（m·K））を入力



[No]	建材名称	熱伝導率[W/(mK)]	熱抵抗[m ² K/W]
[000]（直接入力）		-	-
[001]鋼		55.000	-
[002]アルミニウム		210.000	-
[003]銅		370.000	-
[004]ステンレス鋼		15.000	-
[021]岩石		3.100	-
[022]土壤		1.000	-
[041]コンクリート		1.600	-
[042]軽量コンクリート(軽量1種)		0.800	-
[043]軽量コンクリート(軽量2種)		0.500	-
[045]コンクリートブロック(重量)		1.100	-
[046]コンクリートブロック(軽量)		0.530	-
[047]セメント・モルタル		1.500	-
[048]押出成型セメント板		0.470	-
[061]せっこうプラスター		0.600	-
[074]しつくい		0.740	-
[065]土壁		0.690	-

図 9-1-5-3

手順 4

「厚さ」 部材の厚さを数値で入力（単位：mm）

2) 木造（簡略計算法）

簡易計算法は一般部（断熱材を含む断面）、その他（断熱材が途切れる熱橋部の断面）について、それぞれ材料・厚さを入力し、面積比率を用いて部位の熱貫流率を求める方法です。

手順 1

「部位記号」 任意の文字列を入力し、ボタンをクリック（図 9-1-5-4 参照）

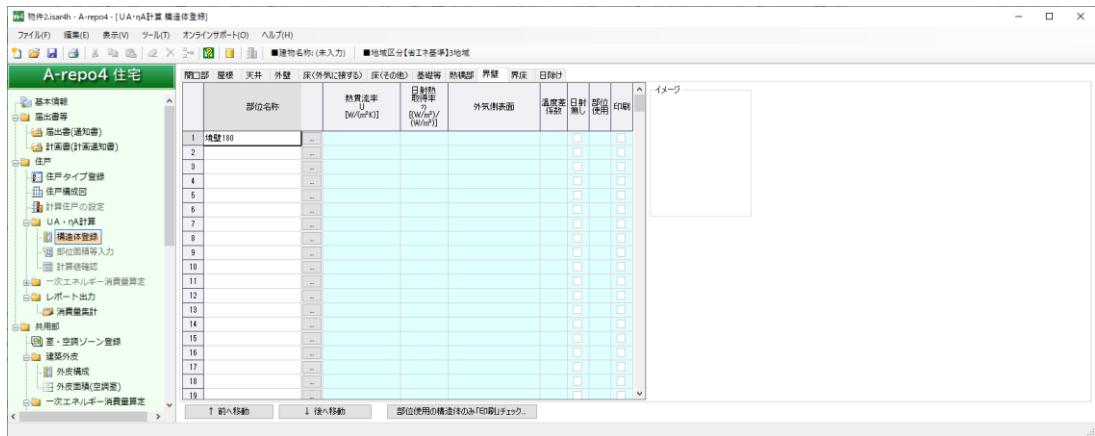


図 9-1-5-4

以降、図 9-1-5-5 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 9-1-5-5

手順 2

※界壁の場合、「外気側表面」は「隣接住戸等（横）」、「温度差係数」は「0.15」が設定された状態になります。

※界床の場合、「外気側表面」は「隣接住戸等（上階）」または「隣接住戸等（下階）」を選択。「温度差係数」は「0.15」が設定された状態になります。

手順 3

「適用構造・断熱工法」 該当する構造を選択

※初期値は基本情報で登録した構造を選択した状態になっています。

手順 4

「木造 工法詳細」 「簡略計算法」または「詳細計算法」を選択

[簡略計算法にチェックし、面積比をクリック]

手順 5

熱橋面積比の選択画面が表示されるので、該当する断熱工法を選択しOKをクリック（図 9-1-5-6 参照）すると、一般部とその他の部分の面積比が表示されます（図 9-1-5-7 参照）

[柱・間柱間に断熱する場合を選択]

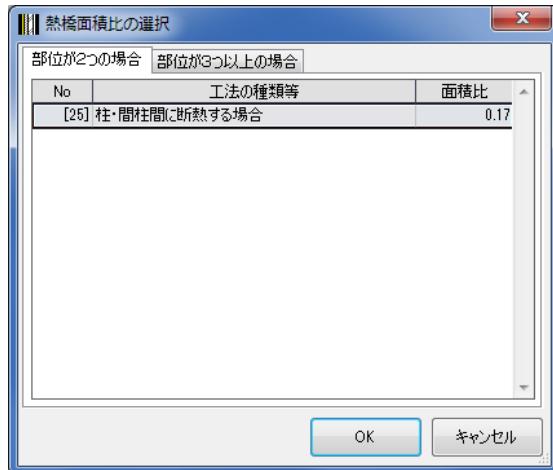


図 9-1-5-6

番号	建材番号	建材名称	熱伝導率 [W/(m·K)]	厚さ d [mm]		d/λ [m²·K/W]	画像番号
				一般部	その他		
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

□ 热橋部が外張断熱材を貫通する

熱貫流率 $U_n = 1 / (R_{si} + \sum(d/\lambda) + R_{se})$	$\sum(d/\lambda) [m²·K/W]$
平均熱貫流率 $U_A = \sum(U_n \times A_n)$	熱貫流率 [W/m²K]
面積比 A_n	0.830 0.170
熱貫流率 $U [W/(m²K)]$	0.00

↑ 前の界壁(P) ↓ 次の界壁(N) 閉じる キャンセル

図 9-1-5-7

手順 6

「番号」 部材番号を入力（図 9-1-5-7 参照）、またはダブルクリックする事でリスト（図 9-1-5-8 参照）が表示されるので部材を選択
カタログ等から部材の熱伝導率を把握している場合には、部
材番号【000】（直接入力）を選択し手順 7 にて厚さとともに
熱伝導率（単位：W/(m·K)）を入力

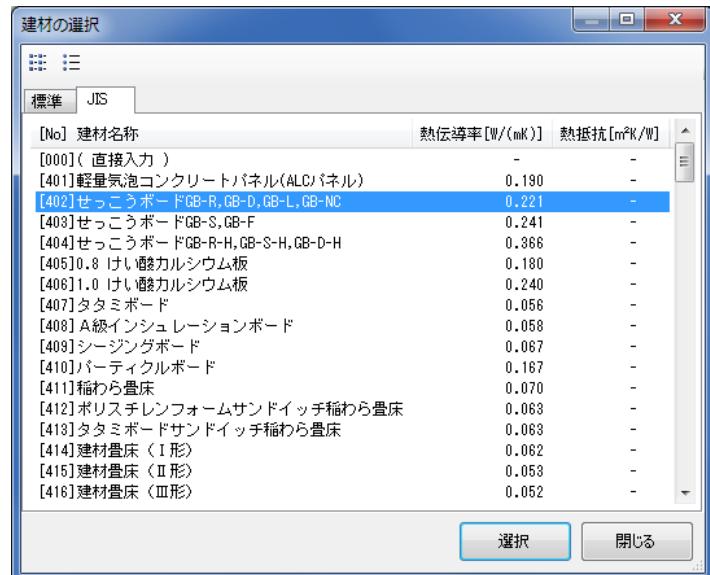


図 9-1-5-8

手順 7

「厚さ」 部材の厚さを数値で入力 (単位 : mm)

[入力事例は図 9-1-5-9 参照]

		建材番号	建材名称	熱伝導率 [W/mK]	厚さ d [mm]	d/λ [m²K/W]	面積比
壁 接戸 内	1	402 せっこうボードGB-R,GB-D,GB-L,GB-NC	0.221	12.5	0.057	0.057	
	2	402 せっこうボードGB-R,GB-D,GB-L,GB-NC	0.221	12.5	0.057	0.057	
	3	128 グラスクール断熱材 20K相当	0.042	50.0	1.190		
	4	81 天然木材	0.120		0.417		
	5	402 せっこうボードGB-R,GB-D,GB-L,GB-NC	0.221	12.5	0.057	0.057	
	6	402 せっこうボードGB-R,GB-D,GB-L,GB-NC	0.221	12.5	0.057	0.057	
	7						
	8						
	9						
	10						

熱構部が外張断熱材を貫通する	
熱貫流率 $U_n = 1/(R_{si} + \sum(d/\lambda) + R_{se})$	$1.418 \quad 0.645$
平均熱貫流率 $U_A = \sum(U_n \times A_n)$	$0.61 \quad 1.16$
面積比 A_n	$0.830 \quad 0.170$
熱貫流率 $U [W/(m²K)]$	0.70

図 9-1-5-9

3) 木造 (詳細計算法)

詳細計算法は断面が異なる部位ごとに材料・厚さおよび面積比率を入力し、面積加重平均により部位の熱貫流率を求める方法です。

[入力事例は図 9-1-5-13 参照]

構造体登録 - [界壁]

部位名称 外気側表面 Rsi Rse 溫度差係数 日射無し 適用構造・断熱工法
境壁50 隣接(住戸等)(横) 0.11 0.11 0.05 木造軸組

階 層 番 号	建材 番 号	建材名称	熱伝導 率λ [W/(mK)]	厚さ d [mm]							画像 番号
				一般部	その他1	その他2	その他3	その他4	その他5	その他6	
1	402	せっこうボードGB-RGB-D,GB-LGB-NC	0.221	<input type="checkbox"/>	12.5	12.5					
2	402	せっこうボードGB-RGB-D,GB-LGB-NC	0.221	<input type="checkbox"/>	12.5	12.5					
3	123	グラスウール断熱材 20K相当	0.042	<input type="checkbox"/>	50.0						
4	81	天然木材	0.120	<input type="checkbox"/>		50.0					
5	402	せっこうボードGB-RGB-D,GB-LGB-NC	0.221	<input type="checkbox"/>	12.5	12.5					
6	402	せっこうボードGB-RGB-D,GB-LGB-NC	0.221	<input type="checkbox"/>	12.5	12.5					
7				<input type="checkbox"/>							
8				<input type="checkbox"/>							
9				<input type="checkbox"/>							
10				<input type="checkbox"/>							

热橋部が外張断熱材を貫通する

Σ{d/λ} [m ² K/W]	0.418	0.645				
熱貫流率 [W/m ² K]	0.61	1.16				
面積比 An	0.830	0.170	<input type="checkbox"/>			
熱貫流率 U[W/(m ² K)]				0.70		

↑ 前の界壁(P) ↓ 次の界壁(N) 閉じる キャンセル

図 9-1-5-13

9.1.6 日除け

図 9-1-6-1 に示す日除けを事例として、入力手順を記載します。

(基本画面で「日除け効果係数算出ツール」((独)建築研究所)で別途計算する」をチェック)

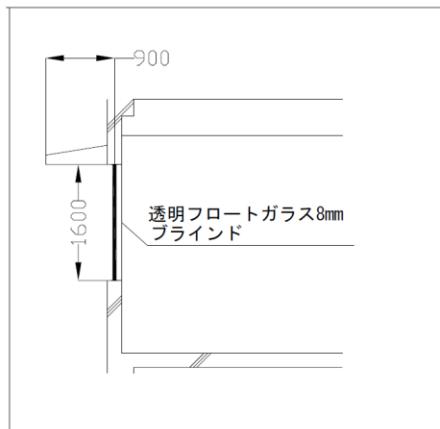


図 9-1-6-1

手順 1

処理メニューの「構造体登録」、「日除け」タブを選択

手順 2

「日除け名称」 任意の文字列を入力 (図 9-1-6-2 参照)

[本事例では「1」と入力]

手順 3

「サイドフィン」 プルダウンリストより選択 (図 9-1-6-2 参照)

[本事例では「無」を選択]

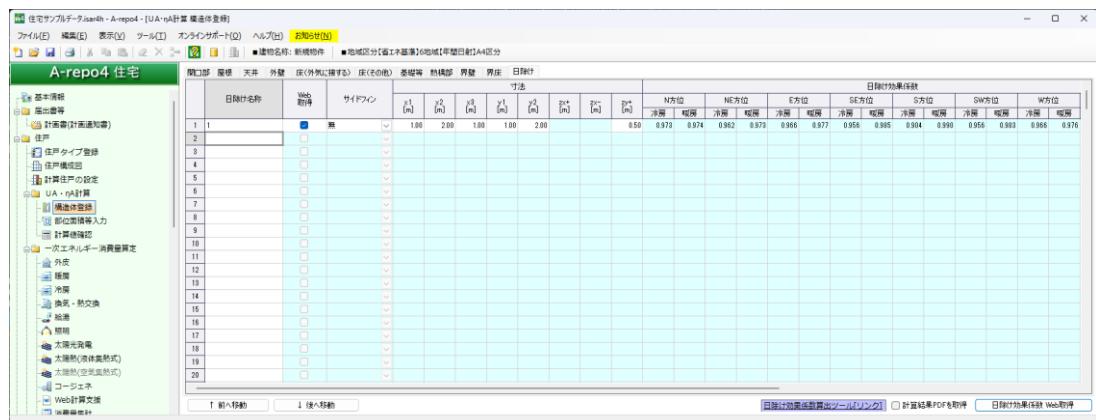


図 9-1-6-2

手順 4

$x1$ 、 $x2$ 、 $x3$ 、 $y1$ 、 $y2$ 、 $zy+$ を数値で入力 (図 8-1-6-3 参照)

[本事例では「 $x1=1.00$ 」、「 $x2=2.00$ 」、「 $x3=1.00$ 」、「 $y1=1.00$ 」、「 $y2=2.00$ 」、「 $zy+=0.50$ 」と入力]

※Ver4.0.8 より、構造体登録画面で $y3$ および $zy-$ は入力不可となりました。

図 9-1-6-3

手順 5

「Web 取得」 日除け効果係数を Web 取得する場合はチェック

(図 9-1-6-4 参照)

[本事例ではチェック]

図 9-1-6-4

右下側の「日除け効果係数 Web 取得」ボタンを押すことにより、「Web 取得」チェックボックスにチェックを入れた日除けの日除け効果係数が自動取得され、日除けの数値が取得値に上書きされます。また、「計算結果 PDF を取得」をチェックした状態で「日除け効果係数 Web 取得」ボタンを押すと、計算結果 PDF を保存することができます。

中央右下側の「日除け効果係数算出ツール」リンクを押す事により、当該ツールサイトが表示されます。

9.1.7 その他の機能

構造材登録画面の下部にあるボタンの機能について記載します（図 9-1-7-1 参照）。



図 9-1-7-1

■選択行の移動

移動したい行を選択した状態で   ボタンをクリックすることで前後に移動します。複数行をまとめて移動も可能です。

■ 使用している構造体のみを印刷

「部位使用の構造体のみ「印刷」チェック...」ボタンをクリックすることで、部位面積入力画面で使用している構造体のみが印刷されるようになります。

■開口部一括変更（「開口部」のみ）

変更したい行を選択した状態で **開口部一括変更...** ボタンをクリックすると [開口部一括変更] 画面が表示されます (図 9-1-7-2 参照)。変更したい仕様を選択し **置換** ボタンをクリックすることにより開口部の仕様が変更されます。複数の開口部の仕様をまとめて変更するための機能です。

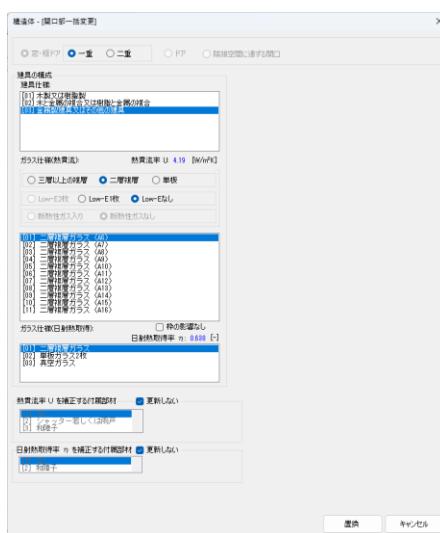


図 9-1-7-2

■開口部一括複製（「開口部」のみ）

複製したい行を選択した状態で **開口部一括複製...** ボタンをクリックすると [開口部一括複製] 画面が表示されます（図 9-1-7-3 参照）。複製したい行を入力し、**複製** ボタンをクリックすることにより開口部の仕様が変更されます。複数の開口部の仕様をまとめて複製するための機能です。

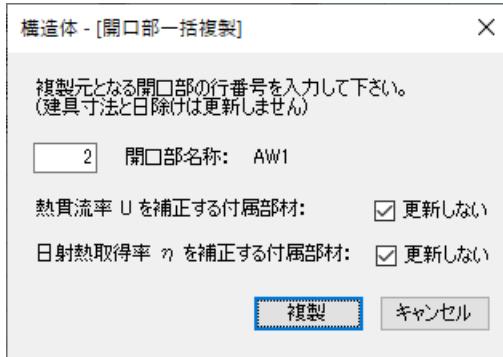


図 9-1-7-3

複製元となる行番号は選択範囲内の先頭行がデフォルトで表示されます（開口部が登録された行であれば任意切り替え可能）。

建具寸法と日除けは更新しません。

付属部材はデフォルトでは更新しません。更新する場合は「更新しない」チェックを解除します。

使用データ、および、開口部の種類ごとに複製可能な開口部は以下の通り（図 9-1-7-4 参照）。

複製元 / 複製先	窓・框ドア	ドア	隣接空間に通ずる開口
窓・框ドア	○	×	×
ドア	×	○	×
隣接空間に通ずる開口	×	×	○

図 9-1-7-4

■補強仕様一括変更（「熱橋部」のみ）

補強仕様を変更したい行を選択した状態で **補強仕様一括変更...** ボタンをクリックすると [補強仕様一括変更] 画面が表示されます（図 9-1-7-5 参照）。変更したい仕様を選択し **選択** ボタンをクリックすることにより補強仕様が変更されます。複数の補強仕様をまとめて変更するための機能です。

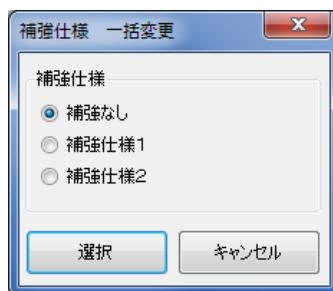


図 9-1-7-5

9.2 部位面積等入力

計算住戸ごとの外皮の方位・部位記号・面積等を入力します。(図 9-2 参照)



図 9-2

	凡例	計算住戸名	住戸位置
1		A(10F)	最上階
2		A(3F)	中間階
3		A(2F)	中間階
4		B(10F)	最上階
5		B(3F)	中間階
6		B(1F)	最下階
7		C(10F)	最上階
8		C(3F)	中間階
9		C(1F)	最下階

図 9-3

計算項目	基準値	計算値
外皮面積合計 [m ²]	-	0.00
外皮平均熱貫流率 UA [W/(m ² K)]	0.87	0.00
冷房期平均日射熱取得率 η AC [-]	3.0	0.0
暖房期平均日射熱取得率 η AH [-]	-	0.0

热貫流率・日射热取得率の詳細の表示

図 9-4

以降、図 9-5 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

計算住戸の設定画面で設定した住戸が表示されます。

※ここでは計算住戸の追加や削除は行えません。

外皮面積合計、UA 値、 η AC 値、 η AH 値が表示されます。設計値はリアルタイムで表示されます。

熱貫流率・日射熱取得率の詳細の表示にチェックをすると、計算内容の詳細が表示されます。

部位	部位	部位名称 開口部名称	部位説明	日射無し 直接入力	日射 無し	幅 [m]	高さ [m] (幅:熱橋部)	基準 面積 [m ²]	基礎面 積外周長 [m]	接分 数 [-]	壁等	開口部	熱橋部
											方位 (H上)	部位名称	
1	N	外壁	RC150(40)			5.000	階高 ✓	14.75				屋根	
2	L	開口部	AW4			1.200	1.000 ✓	1.20				ルーフバルコニー(60)	
3	L	開口部	SD1			0.850	2.000 ✓	1.70				外壁	
4	S	外壁	RC150(40)			5.000	階高 ✓	14.75				RC150(40)	
5	L	開口部	AW1			3.600	2.000 ✓	7.20				RC180(40)	
6	W	外壁	RC180(40)			12.000	階高 ✓	35.40				外壁(木造)	
7	L	開口部	AW7			1.500	1.000 ✓	1.50				床(外気に接する)	
8	L	開口部	AW8			1.500	1.000 ✓	1.50				駐輪場(45)	
9	E	界壁	界壁			12.000	階高 ✓	35.40				床(その他)	
10	H(上)	界床	上階界床					60.00				共用部(45)	
11	N	熱橋部	外壁-床(外梁)			5.000 ✓			1/ 2 ✓			界壁	
12	S	熱橋部	外壁-床(外梁)			5.000 ✓			1/ 2 ✓			界壁	
13	W	熱橋部	外壁-床(内梁)			12.000 ✓			1/ 2 ✓			上階界床	
14	E	熱橋部	外壁-床(階共用)			12.000 ✓			1/ 3 ✓			下階界床	
15	H(下)	界床	ピット(35)					60.00				ピット(35)	
16	H(下)	熱橋部	地中梁-外壁(外梁)			5.000 ✓			1/ 1 ✓				
17	H(下)	熱橋部	地中梁-外壁(外梁)			5.000 ✓			1/ 1 ✓				
18	H(下)	熱橋部	地中梁-外壁(内梁)			12.000 ✓			1/ 1 ✓				
19	H(下)	熱橋部	地中梁-外壁(内梁)			12.000 ✓			1/ 1 ✓				
20													

図 9-5

手順 1

「方位」「部位」「部位記号」……画面右側のリストから方位、部位記号を選択し、ボタンをクリック（または方位を選択し、部位記号をダブルクリック）することで、方位ごとの部位記号を入力していきます。開口部の入力は開口部が付属する外壁を選択した状態で、画

面右側の開口部リストから開口部を選択し、ボタンをクリック（またはダブルクリック）して入力します。外壁に開口部を付属させることにより外壁の基準面積から開口部面積が差し引かれ、外壁の部位面積が算出されます。

手順 2

「幅」「高さ」「基準面積」 …… 入力した部位ごとの幅と高さを入力（単位：mm）

「高さ」で「階高」を選択すると、住戸構成図で設定した階高を用い基準面積が算定されます。

「幅」「高さ」は入力せずに、「基準面積」の直接入力も可能です。

熱橋部の長さは、「高さ」に入力します。

手順 3

「按分数」 …… 热橋部が複数の住戸にかかる場合の按分数を入力。初期値で「1/1」が入力されます。リストから「1/2」「1/3」を選択または数値の直接入力も可能です。

手順 4

「温度差係数直接入力」「温度差係数」

…… 構造体登録画面で登録した温度差系係数が表示されます。「温度差係数直接入力」にチェックし、温度差係数の直接入力も可能です。

手順 5

「数量」 …… 開口部について初期値で「1」が入力されます。同じ開口部が複数ある場合には、数値の直接入力も可能です。

手順 6

「屋根勾配」 …… 屋根勾配がある場合に高さ／幅の割合を入力します。屋根・天井の場合に入力可能です。

■入力内容のコピー＆ペースト

計算内容はコピーしたい行を選択・コピーし、他の計算住戸へペーストが可能です(図 9-6 参照)。

方位	部位	部位名 開口部名	部位説明	日射 無し	幅 (m)	高さ (幅:熱橋部)	基準 面積 (m ²)	基準等 外周長 (m)	案分 数 [-]	温度差 係数 直接入力	温度差 係数	数量 (面積 m ²)	差引 面積 (m ²)	部位 面積 (m ²)	屋根 勾配 α
1 N	外壁	RC160(40)		<input type="checkbox"/>	6.000	階高	18.00		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00	3.20	14.80		
2 L	開口部	AW2		<input type="checkbox"/>	1.500	1.000	1.50		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00	1	1.50		
3 L	開口部	SD1		<input type="checkbox"/>	0.850	2.000	1.70		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00	1	1.70		
4 S	外壁	RC160(40)		<input type="checkbox"/>	6.000	階高	18.00		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00	5.40	12.60		
5 L	開口部	AW1		<input type="checkbox"/>	3.000	1.800	5.40		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00	1	5.40		
6 E	界壁	界壁180		<input checked="" type="checkbox"/>	10.000	階高	30.00		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0.15	0.00	30.00		
7 W	界壁	界壁180		<input checked="" type="checkbox"/>	10.000	階高	30.00		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0.15	0.00	30.00		
8 H(上)	熱橋部	RSL外梁		<input type="checkbox"/>	6.000			1/ 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00				
9 H(上)	熱橋部	RSL外梁		<input type="checkbox"/>	6.000			1/ 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00				
10 N	熱橋部	SL外梁		<input type="checkbox"/>	6.000			1/ 2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00				
11 S	熱橋部	SL外梁		<input type="checkbox"/>	6.000			1/ 2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00				
12 H(上)	屋根	屋根200(50)		<input type="checkbox"/>		6.00			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.00	0.00	60.00	0.00	
13 H(下)	屋根	下階界床200		<input checked="" type="checkbox"/>		6.00			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0.15	0.00	60.00		
14															
15															

図 9-6

9.3 計算値確認

計算住戸ごとの計算結果および判定が一覧で表示されます（図 9-7 参照）。



以下は図 9-7 に示す計算結果の一例です。

序号	住戸名	住戸位置	住戸横 [m]	住戸奥 [m]	外縁の面積 [m ²]	外縁の面積 [m ²]	外皮仕様基準		外皮平均熱損失率 [W/(m ² K)]	冷暖房平均日射熱負荷率 [(W/m ²)/(W/m ²)]	冷暖房平均日射熱負荷率 [(W/m ²)/(W/m ²)]	備考	
							省エネ	経済					外皮面積合計 [m ²]
1	A5(1F)	最下階・妻	1	2.950	60.00	21.00	24.00	15.00	220.30	0.87	0.70	○	2.8 1.0 ○ 1.3
2	A5(2F)	中階階・妻	0	2.950	60.00	21.00	24.00	15.00	220.30	0.87	0.80	○	2.8 1.1 ○ 1.3
3	A5(10F)	最上階・妻	1	2.950	60.00	21.00	24.00	15.00	220.30	0.87	0.76	○	2.8 1.5 ○ 1.8
4	B5(2F)	最下階・中	1	2.950	72.00	25.20	26.80	18.00	250.20	0.87	0.76	○	2.8 0.6 ○ 0.9
5	B5(3F)	中階階・中	7	2.950	72.00	25.20	26.80	18.00	250.20	0.87	0.66	○	2.8 0.6 ○ 0.9
6	C5(2F)	最下階・妻	1	2.950	84.00	29.40	33.60	21.00	288.10	0.87	0.77	○	2.8 0.9 ○ 1.2
7	C5(3F)	中階階・妻	6	2.950	84.00	29.40	33.60	21.00	288.10	0.87	0.75	○	2.8 1.0 ○ 1.2
8	C5(4F)	最上階・妻	1	2.950	84.00	29.40	33.60	21.00	288.10	0.87	0.75	○	2.8 1.3 ○ 1.6
9	D5(10F)	最上階	1	2.950	108.00	37.80	43.20	27.00	348.76	0.87	0.75	○	2.8 1.6 ○ 2.0

図 9-7

10 一次エネルギー消費量算定

一次エネルギー消費量の計算は「一次エネルギー消費量算定用 Web プログラム（住宅用）」を用いて行います。本ソフトウェアでは、住戸に設置されている設備機器の仕様を設定し、Web プログラムから一次エネルギー消費量の結果を取得します。

各設備について「共通設定」を行い、それと仕様の異なる住戸については「個別設定」が可能です。各設備は建築的に実装されるもののみを評価し、居住者が個別に設置するものは対象外となります。

10.1 外皮

図 10-1 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

なお、本ソフトウェアで $UA \cdot \eta A$ 計算を行っている場合は、UA 値、 $\eta A C$ 値、 $\eta A H$ 値は自動で算出されます。

図 10-1

■自然風の利用

手順 1

「主たる居室」及び「その他の居室」について、冷房期に自然風を利用する程度（換気回数）をプルダウンリストより選択

■蓄熱利用

手順 2

暖房期に蓄熱を利用する場合にチェック

■床下空間を経由して外気を導入する換気方式の採用

手順 3

床下空間を経由して外気を導入する換気方式の利用状況をプルダウンリストより選択

■外気が経由する床下の面積の割合[%]

手順 4

床下空間を経由して外気を導入する換気方式を利用する場合に、外気が経由する床下の面積の割合を百分率で入力

■床下空間の断熱

手順 5

床下空間を経由して外気を導入する換気方式を利用する場合に、床下の空間が熱的境界に囲まれた空間である場合は「断熱区画内」、そうでない場合は「断熱区画外」をプルダウンリストより選択

10.2 暖房設備

図 10-2 及び図 10-3 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

区分	計画住戸名	住戸位置	個別 設定	暖房方式	暖房設備機器または放熱器の種類		省エネ率	能力と消費電力を入力	エネルギー消費率の区分	エネルギー消費率の区分	小動力時高効率型コンプレッサー	床下暖熱効率を入力	床下暖熱効率	床下暖熱効率	床下暖熱効率	床下暖熱効率	床下暖熱効率	
					区分 (F)	接続 (F)												
1	Aタイプ(F)	最上階・妻		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
2	Aタイプ(F)	中間階・妻		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
3	Aタイプ(F)	最上階・妻		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
4	Bタイプ(F)	最下階・中		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
5	Bタイプ(F)	中間階・中		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
6	Cタイプ(F)	最下階・妻		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
7	Cタイプ(F)	中間階・妻		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
8	Cタイプ(F)	最上階・妻		居室ごとに計画する ルームエアコンディショナー	区分 (F)	接続 (F)												
9	Dタイプ(F)	最上階		居室ごとに計画する 温水床暖房	区分 (F)	接続 (F)												

図 10-2

区分	計画住戸名	住戸位置	個別 設定	暖房設備機器または放熱器の種類	省エネ率	能力と消費電力を入力	エネルギー消費率の区分	エネルギー消費率の区分	小動力時高効率型コンプレッサー	床下暖熱効率を入力	暖房設備機器または放熱器の種類		省エネ率	能力と消費電力を入力	エネルギー消費率の区分		
											区分 (F)	接続 (F)					
1	Aタイプ(F)	最下階・妻		計画 (F)							接続 (F)						
2	Aタイプ(F)	中間階・妻		計画 (F)							接続 (F)						
3	Aタイプ(F)	最上階・妻		計画 (F)							接続 (F)						
4	Bタイプ(F)	最下階・中		計画 (F)							接続 (F)						
5	Bタイプ(F)	中間階・中		計画 (F)							接続 (F)						
6	Cタイプ(F)	最下階・妻		計画 (F)							接続 (F)						
7	Cタイプ(F)	中間階・妻		計画 (F)							接続 (F)						
8	Cタイプ(F)	最上階・妻		計画 (F)							接続 (F)						
9	Dタイプ(F)	最上階		ルームエアコンディショナー							接続 (F)						

図 10-3

■暖房方式

手順 1

該当する暖房方式をプルダウンリストより選択

■暖房設備機器又は放熱器の種類

手順 2

該当する暖房設備機器又は放熱器をプルダウンリストより選択

■その他の設備機器の名称

手順 3

手順 2 で「その他の暖房設備機器」を選択した場合に入力

■省エネ対策

手順 4

手順 2 で「ルームエアコンディショナー」又は「FF 暖房設備」を選択した場合で、省エネルギー対策に取り組んでいる場合にチェック

■能力と消費電力を入力

手順 5

手順 4 でチェックをいれた場合に設定。定格能力および定格消費電力を入力する場合にチェック

■定格冷房能力

手順 6

手順 5 でチェックをいれた場合に入力

■定格冷房消費電力

手順 7

手順 5 でチェックをいれた場合に入力

■エネルギー消費効率の区分

手順 8

手順 4 で省エネ対策をチェックした場合に該当する区分をプルダウンリストより選択

手順 5 ～手順 7 で入力をした場合は、自動判定により設定、表示

■小能力時高効率型コンプレッサー

手順 9

手順 2 で「ルームエアコンディショナー」を選択し、手順 4 で省エネ対策をチェックした場合にプルダウンリストより選択

■定格能力におけるエネルギー消費効率 [%]

手順 10

手順 4 で省エネ対策をチェックした場合に機器の定格能力におけるエネルギー消費効率を入力

■床暖房敷設率を入力

手順 11

手順 2 で「温水床暖房」又は「電気ヒーター式床暖房」又は「ルームエアコンディショナー付温水床暖房機」を選択した場合に、床暖房敷設率を入力する場合にチェック

■床暖房敷設率 [%]

手順 12

手順 11 で「床暖房敷設率を入力する」をチェックした場合に、居室面積（主たる居室又はその他の居室の合計面積）に対する床暖房パネルの敷設面積の比率を百分率で入力

■仮想床の床面積を除いた敷設率を入力

手順 13

手順 2 で「温水床暖房」又は「電気ヒーター式床暖房」又は「ルームエアコンディショナー付温水床暖房機」を選択した場合に、仮想床の床面積を除いた敷設率を入力する場合にチェック

■仮想床の床面積を除いた敷設率 [%]

手順 14

手順 12 で「仮想床の床面積を除いた敷設率を入力する」をチェックした場合に仮想床の床面積を除いた敷設率を入力

■床の部位で上面放熱率を算定

手順 15

手順 2 で「温水床暖房」又は「電気ヒーター式床暖房」又は「ルームエアコンディショナー付温水床暖房機」を選択した場合で、床の部位で上面放熱率を算定し、放熱率を床の断熱(上面放熱率)に自動表示する場合はチェック

■床の部位

手順 16

手順 2 で「温水床暖房」又は「電気ヒーター式床暖房」又は「ルームエアコンディショナー付温水床暖房機」を選択した場合において、床の部位で上面放熱率を算定する場合の床の部位をプルダウンリストより選択

■床の断熱(上面放熱率) [%]

手順 17

手順 2 で「温水床暖房」又は「電気ヒーター式床暖房」又は「ルームエアコンディショナー付温水床暖房機」を選択した場合に、上面放熱率(床暖房パネルに投入した熱量に対する居室に放熱される熱量の割合)を百分率で入力

手順 15、手順 16 で入力した場合は、自動で上面放熱率を算定し表示

■低出力モード

手順 18

手順 2 で「電気ヒーター式床暖房」を選択した場合で、低出力モードを採用する場合にチェック

■断熱配管の採用

手順 19

手順 2 で「ルームエアコンディショナー付き温水床暖房」を選択した場合で、断熱配管を採用する場合にチェック

■熱出力 [kW]

手順 20

手順 2 で「ペレットストーブ」を選択した場合に、熱出力を入力
初期値で 12.5Kw が表示

■熱効率 [%]

手順 21

手順 2 で「ペレットストーブ」を選択した場合に、熱効率を入力
初期値で 63.7% が表示

■点火時消費電力量 [Wh]

手順 22

手順 2 で「ペレットストーブ」を選択した場合に、点火時消費電力量を入力
初期値で 155Wh が表示

■定常時消費電力 [W]

手順 23

手順 2 で「ペレットストーブ」を選択した場合に、定常時消費電力を入力
初期値で 134W が表示

※手順 2 ～手順 23 は、主たる居室及びその他の居室についてそれぞれ行います。

<温水式暖房機を設置する場合>

■温水式暖房熱源機の種類

手順 24

手順 2 で「温水パネルラジエーター」又は「温水床暖房」又は「温水ファンコンベクター」を選択した場合に該当する熱源機をプルダウンリストより選択

■熱交換器タイプを入力

手順 25

手順 24 で「地中熱ヒートポンプ温水暖房機」を選択した場合に、熱交換器タイプを入力する場合にチェック

■熱交換器タイプ(相当最大熱交換能力の範囲)

手順 26

手順 25 で

「熱交換器タイプを入力する」をチェックした場合に、相当最大熱交換能力の範囲プルダウンリストより選択

■他の温水暖房機の名称

手順 27

手順 24 で「他の温水暖房機」を選択した場合に入力

■省エネ対策

手順 28

手順 24 で「石油従来型温水暖房機」又は「ガス従来型温水暖房機」又は「ガス潜熱回収型温水暖房機」を選択した場合で、省エネルギー対策に取り組んでいる場合にチェック

■定格能力におけるエネルギー消費効率 [%]

手順 29

手順 28 で「省エネ対策」をチェックした場合に機器の定格能力におけるエネルギー消費効率（暖房用熱効率）を入力

■低出力モード

手順 30

手順 2で主たる居室に「温水床暖房」を選択かつ、手順 24で「ガス潜熱回収型温水暖房機」又は「電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒）」又は「給湯・温水暖房一体型を使用する」又は「コーチェネレーションを使用する」を選択した場合で、低出力モードを採用する場合にチェック

■断熱配管

手順 31

手順 2で温水を使用する機器を選択した場合で温水配管に断熱措置（断熱被覆）をしている場合にチェック（一部でも断熱被覆されてない箇所がある場合やサヤ管等にできる空気層などは断熱措置にはならない）

■配管が通過する空間

手順 32

手順 24で「温水暖房機を設置しない」以外が選択された場合に、該当する空間をプルダウンリストより選択

<ダクト式セントラル空調機>

■ダクトが通過する空間

手順 33

手順 1で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合に、該当する空間をプルダウンリストより選択

■VAV方式の採用

手順 34

手順 1で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合で、VAV方式を採用する場合にチェック

■全般換気機能の有無

手順 35

手順 1で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合で、全般換気機能有りの場合にチェック

■機器の仕様の入力

手順 36

手順 1で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合に、該当する機器の仕様の入力をプルダウンリストより選択

■定格暖房能力試験の値

- ・能力[W]

手順 37

手順 36で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、能力を入力

- ・消費電力[W]

手順 38

手順 36 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、消費電力を入力

- ・風量 [m³/h]

手順 39

手順 36 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、風量を入力

- ・室内側送風機の消費電力 [W]

手順 40

手順 36 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、室内側送風機の消費電力を入力

■中間暖房能力試験の値

- ・能力 [W]

手順 41

手順 36 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、能力を入力

- ・消費電力 [W]

手順 42

手順 36 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、消費電力を入力

- ・風量 [m³/h]

手順 43

手順 36 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、風量を入力

- ・室内側送風機の消費電力 [W]

手順 44

手順 36 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、室内側送風機の消費電力を入力

■設計風量の入力

手順 45

手順 1 で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合で、設計風量を入力する場合にチェック

■設計風量

手順 46

手順 45 で「設計風量の入力」をチェックした場合に、設計風量を入力

10.3 冷房設備

図 10-4 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

図 10-4

■冷房方式

手順 1

該当する冷房方式をプルダウンリストより選択

■冷房設備機器の種類

手順 2

該当する冷房設備機器をプルダウンリストより選択

■その他の設備機器の名称

手順 3

手順 2 で「その他の冷房設備機器」を選択した場合に入力

■省エネ対策

手順 4

手順 2 で「ルームエアコンディショナー」を選択した場合で、省エネルギー対策に取り組んでいる場合にチェック

■能力と消費電力を入力

手順 5

手順 4 でチェックをいれた場合に設定。定格能力および定格消費電力を入力する場合にチェック

■定格冷房能力

手順 6

手順 5 でチェックをいれた場合に入力

■定格冷房消費電力

手順 7

手順 5 でチェックをいれた場合に入力

■エネルギー消費効率の区分

手順 8

手順 4 で省エネ対策をチェックした場合に該当する区分をプルダウンリストより選択

手順 5 ～手順 7 で入力をした場合は、自動判定により設定、表示

■小能力時高効率型コンプレッサー

手順 9

手順 2 で「ルームエアコンディショナー」を選択し、手順 4 で省エネ対策をチェックした場合にプルダウンリストより選択

※手順 2 ～手順 9 は、主たる居室及びその他の居室についてそれぞれ行います。

<ダクト式セントラル空調機>

■ダクトが通過する空間

手順 10

手順 1 で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合に、該当する空間をプルダウンリストより選択

■VAV 方式の採用

手順 11

手順 1 で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合で、VAV 方式を採用する場合にチェック

■全般換気機能の有無

手順 12

手順 1 で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合で、全般換気機能有りの場合にチェック

■機器の仕様の入力

手順 13

手順 1 で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合に、該当する機器の仕様の入力をプルダウンリストより選択

■定格冷房能力試験の値

・能力[W]

手順 14

手順 13 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、能力を入力

・消費電力[W]

手順 15

手順 13 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、消費電力を入力

・風量[m³/h]

手順 16

手順 13 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、風量を入力

- ・室内側送風機の消費電力[W]

手順 17

手順 13 で「定格能力試験の値を入力」または「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、室内側送風機の消費電力を入力

■中間冷房能力試験の値

- ・能力[W]

手順 18

手順 13 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、能力を入力

- ・消費電力[W]

手順 19

手順 13 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、消費電力を入力

- ・風量[m³/h]

手順 20

手順 13 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、風量を入力

- ・室内側送風機の消費電力[W]

手順 21

手順 13 で「定格能力試験と中間試験の値を入力」をプルダウンリストより選択した場合に、室内側送風機の消費電力を入力

■設計風量の入力

手順 22

手順 1 で「ダクト式セントラル空調」を選択した場合で、設計風量を入力する場合にチェック

■設計風量

手順 23

手順 22 で「設計風量の入力」をチェックした場合に、設計風量を入力

10.4 換気設備

図 10-5 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 10-5

■換気設備の方式

手順 1

該当する換気設備方式をプルダウンリストより選択

■省エネルギー対策の有無と採用した手法の選択

手順 2

換気設備について省エネルギー対策を実施している場合に該当する手法をプルダウンリストより選択

※径の太いダクト…内径 75mm 以上のダクトのみを使用している

※DC モーターを採用…DC (直流) の電動機を採用している

■設計風量

手順 3

手順 2 で「設計風量及び消費電力を入力」を選択した場合に設計風量を入力

■消費電力

手順 4

手順 2 で「設計風量及び消費電力を入力」を選択した場合に設計風量を入力

■比消費電力 [W/(m³/h)]

手順 5

手順 2 で「比消費電力を入力」を選択した場合に比消費電力を入力

※比消費電力 = 「消費電力の合計」 / 「設計風量の合計」

手順 2 で「設計風量及び消費電力を入力」を選択し、手順 3、手順 4 で設計風量と消費電力を入力した場合、自動計算された値を表示

■換気回数

手順 6

建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項第 2 号の表における「住宅等の居室」の分類に従い、当該住戸における換気回数をプルダウンリストより選択

■第一種設備有効換気量率 [-]

手順 7

手順 1 で「ダクト式第一種換気設備」又は「壁付け式第一種換気設備」を選択した場合に有効換気量率を入力（熱交換換気設備を用いない場合は、1.0 とする）

■熱交換型換気

手順 8

手順 1 で「ダクト式第一種換気設備」又は「壁付け式第一種換気設備」を選択した場合で、熱交換換気設備を設置する場合にチェック

■温度交換効率 [%]

手順 9

手順 8 で熱交換型換気をチェックした場合に温度交換効率を入力

■給気と排気の比率による温度交換効率の補正係数 [-]

手順 10

手順 7 で熱交換型換気をチェックした場合に補正係数を入力（0.90 とする）

■排気過多時における住宅外皮経由の漏気による温度交換効率の補正係数 [-]

手順 11

手順 8 で熱交換型換気をチェックした場合に補正係数を入力（1.00 とする）

10.5 給湯設備

図 10-6 及び図 10-7 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

図 10-6

図 10-7

<給湯熱源機>

■給湯設備有無

手順 1

給湯設備あり(浴室あり・なし)・なしをプルダウンリストより選択

■熱源機の分類

手順 2

該当する熱源機の分類をプルダウンリストより選択

■熱源機(給湯専用型)の種類

手順 3

手順 2で「給湯専用型」を選択した場合に熱源機の種類をプルダウンリストより選択

■熱源機(給湯・温水暖房一体型)の種類

手順 4

手順 2で「給湯・温水暖房一体型」を選択した場合に熱源機の種類をプルダウンリストより選択

■熱源構成

手順 5

手順 4で「電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯温水暖房機」を選択した場合に熱源構成をプルダウンリストより選択

■品番入力

手順 6

手順 3で「電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯機」又は「電気ヒートポンプ給湯機(C02冷媒またはR32冷媒)」を選択、又は手順 5で「暖房部：ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス」を選択した場合に選択

■ヒートポンプユニット品番

手順 7

手順 6で「品番入力」をチェックした場合に入力、又は後の手順 11で機器の選択ダイアログより機器を選択し設定

■貯湯ユニット品番

手順 8

手順 6 で「品番入力」をチェックした場合に入力、又は後の手順 11 で機器の選択ダイアログより機器を選択し設定

■補助熱源品番

手順 9

手順 3 で「電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯機」を選択、又は手順 5 で「暖房部：ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス」を選択した場合で、手順 6 で「品番入力」をチェックした場合、又は後の手順 11 で電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯機の選択ダイアログより機器を選択し設定

■システム形式

手順 10

手順 3 「電気ヒートポンプ給湯機(CO2 冷媒または R32 冷媒)」を選択、手順 6 で「品番入力」をチェックした場合に入力、又は後の手順 11 で電気ヒートポンプ給湯機の選択ダイアログより機器を選択し設定

■参照

手順 11

手順 6 で「品番入力」をチェックした場合に押下し、機器の選択ダイアログを開いて選択

※電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯機については、

「一般社団法人 住宅性能評価・表示協会 溫熱・省エネ設備機器等ポータルサイト(住宅版)」

(https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/hybrid_water_heaters) を参照

※電気ヒートポンプ給湯機については、

「一般社団法人 住宅性能評価・表示協会 溫熱・省エネ設備機器等ポータルサイト(住宅版)」

(https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/electric_heat_pumps) を参照

■冷媒の種類

手順 12

手順 3 で「電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯温水暖房機」を選択、又は手順 5 で「暖房部：ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス」を選択した場合で手順 6 で「品番入力」をチェックしない場合にプルダウンリストより冷媒の種類を選択

■タンクユニットの設置場所

手順 13

手順 5 で「暖房部：電気ヒートポンプ・ガス、給湯部：ガス、貯湯タンク：あり」を選択した場合にタンクユニットの設置場所をプルダウンリストより選択

■タンク容量

手順 14

手順 3 で「電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯機」を選択した場合又は手順 5 で「暖

房部：ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス」を選択した場合で手順 6 で「品番入力」をチェック無し、手順 12 で「フロン系冷媒」を選択した場合にタンク容量をプルダウンリストより選択

■電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機の区分

手順 15

手順 2 で「給湯・温水暖房一体型」を選択した場合又は手順 4 で「電気ヒートポンプ・ガス併用型給湯温水暖房機」を選択した場合又は手順 5 で「暖房部：電気ヒートポンプ・ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス」を選択した場合に、電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機の区分をプルダウンリストより選択

■その他機器名称

手順 16

手順 2 で「その他の給湯設備機器」を選択した場合に採用する機器名称を入力

■効率入力

手順 17

手順 3 で「ガス従来型・ガス潜熱回収型給湯機」又は「石油従来型・石油潜熱回収型給湯機」又は「電気ヒートポンプ給湯機(CO2 冷媒または R32 冷媒)」を選択した場合、若しくは、手順 4 で「ガス従来型給湯温水暖房機」又は「ガス潜熱回収型給湯温水暖房機」又は「石油従来型給湯温水暖房機」又は「石油潜熱回収型給湯温水暖房機」を選択した場合で、効率を入力して省エネルギー効果を評価する場合にチェック

■暖房部 JIS 効率 [%]

手順 18

手順 4 で「ガス従来型給湯温水暖房機」又は「ガス潜熱回収型給湯温水暖房機」又は「石油従来型給湯温水暖房機」を選択した場合で、手順 17 で効率入力をチェックした場合に暖房部の熱効率を入力

- ・ガス熱源機…JIS S 2112 に基づく熱効率
- ・石油熱源機…JIS S 3031 に基づく熱効率

■給湯部 入力効率

手順 19

給湯部の入力効率について該当するものをプルダウンリストより選択

■給湯部 機種名

手順 20

手順 3 で「電気ヒートポンプ給湯機(CO2 冷媒または R32 冷媒)」を選択した場合で給湯部入力効率に「M1 スタンダード」を選択した場合、機種名を入力

■給湯部 効率の入力 [%] [-]

手順 21

手順 17 で効率入力をチェックした場合に、「エネルギー消費効率」又は「モード熱効率」をプルダウンリストより選択し、給湯部の熱効率を入力

- ・ガス給湯器又は石油給湯器…JIS S 2075 に基づくモード熱効率
- ・電気ヒートポンプ給湯器…JIS C 9220 に基づく年間給湯保温効率又は年間給湯効率

■給湯部 昼間沸上げ

手順 22

手順 3で「電気ヒートポンプ給湯機(CO2 冷媒またはR32 冷媒)」を選択した場合で給湯部入力効率に「JIS 効率」を選択した場合、昼間沸上げの有無を指定

■昼間沸上げ 仕様の入力

手順 23

手順 22で昼間沸上げをチェックした場合に仕様の入力の有無を指定

■昼間沸上げ 仕様の入力

手順 24

手順 23で仕様の入力をチェックした場合に該当するものをプルダウンリストより選択

■昼間沸上げ 仕様の入力

手順 25

手順 23で仕様の入力をチェックした場合に昼間消費電力量比率を入力

■ふろ機能

手順 26

ふろ機能の種類について該当するものをプルダウンリストより選択

■配管方式

手順 27

採用する配管方式をプルダウンリストより選択

■ヘッダ一分岐後配管径

手順 28

手順 27で「ヘッダ一分岐」を選択した場合に分岐後の配管径をプルダウンリストより選択（配管径が確認できない場合は「一部 13A 超」を選択）

■水栓

手順 29

給湯先の水栓の仕様について「台所水栓」、「浴室シャワー水栓」、「洗面水栓」ごとに種類をプルダウンリストより選択

※サーモスタットやミキシング、シングルレバー等の湯水混合水栓は「その他」を選択

※それぞれの場所について1箇所でも2バルブ水栓がある場合は「2バルブ」を選択

■節湯機能（手元止水、水優先、小流量）

手順 30

水栓の節湯機能について「台所水栓」、「浴室シャワー水栓」、「洗面水栓」ごとに該当するものをチェック

- ・手元止水機能（節湯 A1）…使用者の操作範囲内に設けられたボタンやセンサー等のスイッチで吐水・止水操作ができる機能
- ・水優先吐水機能（節湯 C1）…吐水操作部と一体の温度調節レバーハンドルが水栓の正面に位置するときに湯が吐出されない構造
- ・小流量吐水機能（節湯 B1）…通常吐水の際の吐水流量を削減した水栓

■高断熱浴槽

手順 31

JIS A5532に規定する「高断熱浴槽」及びこれと同等以上の性能を有することが確認できる浴槽を採用する場合にチェック
※浴槽が複数ある場合はすべてが該当する場合のみチェック

10.6 照明設備

図 10-8 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 10-8

■照明設置

手順 1

「主たる居室」、「その他の居室」、「非居室」ごとに、照明器具を1つでも設置する場合にチェック

■照明器具種類

手順 2

「主たる居室」、「その他の居室」、「非居室」ごとに、手順1で照明設置にチェックした場合で、設置している照明器具の種類をプルダウンリストより選択

■多灯分散照明

手順 3

「主たる居室」において、手順1で照明設置にチェックした場合で、多灯分散照明方式（一室に複数の照明設備を消費電力の合計を制限し設置することで、運用時の消費量削減と光環境の向上を図る照明方式）を採用する場合にチェック

■調光制御

手順 4

「主たる居室」又は「その他の居室」において、手順1で照明設置にチェックした場合で、照明器具のいずれかに調光が可能な照明器具を採用する場合にチェック

■人感センサー

手順 5

「非居室」において、手順1で照明設置にチェックした場合で、照明器具のいずれかに

人感センサーを採用する場合にチェック

10.7 太陽光発電設備

図 10-9 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

凡例	計画住戸名	住戸位置	個別 設定	太陽光 発電設備	発電の評価	方位の異 なるパネル	パワーコン ディショナ 負荷効率 入力	パワーア レイ	太陽電池 アレイ種類	パネルその1		
										パワーアレイ 定格負荷 効率[%]	太陽電池 アレイ容量 [kW]	太陽電池 アレイ種類
1	Aタイプ(1F)	最下階・妻		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
2	Aタイプ(2F)	中間階・妻		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
3	Aタイプ(10F)	最上階・妻		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
4	Bタイプ(2F)	最下階・中		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
5	Bタイプ(3F)	中間階・中		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
6	Bタイプ(2F)	最下階・妻		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
7	Cタイプ(2F)	中間階・妻		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
8	Cタイプ(3F)	最上階・妻		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度
9	Dタイプ(10F)	最上階		評価する	1面	✓	92.8	2.00	結晶シリコン系	屋根置き	南	30度

図 10-9

■太陽光発電設備の設置

手順 1

太陽光発電設備を設置する場合にチェック

■発電の評価

手順 2

手順 1 で「太陽光発電設備の設置」にチェックした場合に、発電の評価をプルダウンリストより
ストより選択

■方位の異なるパネル

手順 3

手順 2 で「評価する」を選択した場合に、設置する方位の面数をプルダウンリストより
選択（最大 4 面）

※同じ方位でも太陽電池アレイ種類や傾斜角等の仕様が異なる場合は区別して設定する

■パワーコンディショナの定格負荷効率の入力

手順 4

パワーコンディショナの定格負荷効率の入力を行う場合にチェック

■パワーコンディショナの定格負荷効率[%]

手順 5

手順 4 で「パワーコンディショナの定格負荷効率の入力」にチェックした場合に、パワ
ーコンディショナの定格負荷効率を入力

■太陽電池アレイ容量 [kW]

手順 6

設置する太陽電池アレイのシステム容量を小数点以下 2 桁で入力

■太陽電池アレイ種類

手順 7

設置する太陽電池の種類（結晶シリコン系かそれ以外か）をプルダウンリストより選択

■太陽電池設置方式

手順 8

該当する太陽電池アレイの設置方式をプルダウンリストより選択

※屋根材一体型の場合、壁用・窓用アレイの場合などは「その他」を選択

■方位角

手順 9

太陽光発電パネルが向く方位をプルダウンリストより選択

※〈10.8 太陽熱〉の設置方位角と同様に設定

■傾斜角

手順 10

設置する太陽光パネルの傾斜角度（水平面からの角度）をプルダウンリストより選択

※設置した傾斜角の一の位を四捨五入した角度を選択

（リスト右のボタンをクリックし、下図から該当する範囲を選択することも可能）

傾斜角		選択肢
尺貫法	換算値(度)	
0寸(水平)	0	0度(水平)
0.5寸	2.86	
1寸	5.71	
1.5寸	8.53	
2寸	11.30	
2.5寸	14.03	
3寸	16.70	
3.5寸	19.29	
4寸	21.80	
4.5寸	24.22	
5寸	26.57	
5.5寸	28.81	
6寸	30.96	30度
6.5寸	33.02	
7寸	34.99	
7.5寸	36.86	
8寸	38.65	
8.5寸	40.36	40度
9寸	41.98	
9.5寸	43.53	
10寸(矩丸配)	45.00	50度

*1度単位で四捨五入
*一覧がない場合は直接指定する

OK キャンセル

図 10-10

※手順 6～手順 10は、方位の異なるパネルの面数分設定します。

10.8 太陽熱（液体集熱式）設備

図 10-11 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。



図 10-11

■太陽熱（液体集熱式）設備

手順 1

太陽熱（液体集熱式）設備を設置する場合に該当する設備の種類をプルダウンリストより選択

- ・密閉形太陽熱温水器(直圧式)…JIS A 4111「太陽熱温水器」に規定される集熱性能に適合
- ・ソーラーシステム…JIS A 4112「太陽熱集熱器」に規定される集熱性能に適合し、かつ、液体集熱式集熱器のみ対象
- ・開放形太陽熱温水器…JIS A 4111に「太陽熱温水器」規定される貯湯タンク内の液面が大気に開放されている構造を有する太陽熱温水器

■給湯接続方式

手順 2

該当する給湯接続方式をプルダウンリストより選択

■品番入力

手順 3

品番を入力する場合チェック（ソーラーシステムのみ機器参照設定可能）

■集熱総面積 [m²]

手順 4

太陽熱温水器で用いる太陽熱集熱部の「集熱総面積」又は「有効集熱面積」を入力

■集熱部の設置方位角

手順 5

太陽熱温水器で用いる太陽熱集熱部が向く方位をプルダウンリストより選択（リスト右のボタンをクリックし、図 10-11 の右図から該当する範囲を選択することも可能）

■集熱部の設置傾斜角

手順 6

太陽熱温水器で用いる太陽熱集熱部が設置された傾斜角度（水平面からの角度）をプル

ダウンリストより選択

※設置した傾斜角の一の位を四捨五入した角度を選択

■貯湯タンク容量

手順 7

貯湯タンク容量（貯湯タンクが複数ある場合は合計値）を入力

※タンク容量は JIS A 4113 で表示される貯湯槽容量を用いる

■品番による詳細パラメータ

手順8

手順3で品番入力をチェックした場合、機器ダイアログを開いて選択または直接入力

※太陽熱温水器の機器については、

「一般社団法人 住宅性能評価・表示協会 温熱・省エネ設備機器等ポータルサイト（住宅版）」

[（https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/solar_water_heaters）](https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/solar_water_heaters) を参照

※ソーラーシステムの機器については、

「一般社団法人 住宅性能評価・表示協会 温熱・省エネ設備機器等ポータルサイト（住宅版）」

[（https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/solar_systems）](https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/solar_systems) を参照

10.9 太陽熱（空気集熱式）設備

図 10-12 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

図 10-12

■空気集熱設備設置

手順 1

太陽熱（空気集熱式）設備を設置する場合にチェック

■集熱器群の数

手順 2

手順 1で「空気集熱設備設置」にチェックした場合に、設置する集熱器群の数をプルダウンリストより選択（最大 4 面）

■集熱部の方位角

手順 3

集熱部の方位角をプルダウンリストより選択

※〈10.8 太陽熱〉の設置方位角と同様に設定

■空気搬送ファンの自立運転用太陽光発電装置の採用

手順 4

空気搬送ファンの自立運転用太陽光発電装置を採用する場合はチェック

■空気搬送ファンの種別

手順 5

空気搬送ファンの種別をプルダウンリストより選択

■機外静圧をゼロとした時の空気搬送ファンの風量[m³/h]

手順 6

空気搬送ファンの送風機特性曲線において機外静圧をゼロとした時の空気搬送ファンの風量を設定

■集熱した熱の給湯への利用

手順 7

集熱した熱を給湯へ利用する場合はチェック

■循環ポンプの自立運転用太陽光発電装置の採用

手順 8

手順 7で「集熱した熱の給湯への利用」にチェックをした場合、循環ポンプの自立運転用太陽光発電装置を採用する場合はチェック

■給湯部のタンク容量[L]

手順 9

手順 7で「集熱した熱の給湯への利用」にチェックをした場合、給湯部のタンク容量を整数値で入力

■集熱後の空気を供給する空間

手順 10

集熱後の空気を供給する空間をプルダウンリストより選択

■集熱後の空気を供給する床下の面積の割合[%]

手順 11

集熱後の空気を供給する床下の面積の割合を入力

■床下空間の断熱

手順 12

床下空間の断熱をプルダウンリストより選択

■集熱器群の面積[m²]

手順 13

集熱器群の面積を小数点以下 1 衡で入力

■集熱器群の傾斜角

手順 14

集熱器群の傾斜角をプルダウンリストより選択

■集熱器群の仕様の入力

手順 15

集熱器群の仕様を入力する場合、チェック

■集熱器群の集熱効率特性線図一次近似式の切片[-]

手順 16

手順 15で「集熱期群の仕様の入力」にチェックを入れた場合に、集熱効率特性線図一次近似式の切片を小数点以下 1 衡で入力

■集熱器群の集熱効率特性線図一次近似式の傾き[W/(m² · K)]

手順 17

手順 15で「集熱期群の仕様の入力」にチェックを入れた場合に、集熱効率特性線図一次近似式の傾きを小数点以下 1 衡で入力

■集熱器群の集熱性能試験時における単位面積当たりの空気の質量流量[kg/(s · m³)]

手順 18

手順 15で「集熱期群の仕様の入力」にチェックを入れた場合に、集熱性能試験時における単位面積当たりの空気の質量流量を小数点以下 4 衡で入力

※手順 13～手順 18は、集熱器群の数分設定します。

10.10 コージェネレーション設備

図 10-13 に示す入力画面を基に入力手順を記載します。

凡例	計算住戸名	住戸位置	コージェネレーション				
			個別設定	コージェネレーションの採用	コージェネレーション種類	コージェネレーション機器(PowerUnit)	コージェネレーション機器(TankUnit)
--共通設定--	--タイプ共通--		<input type="checkbox"/>				
1	Aタイプ(1F)	最下階・妻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
2	Aタイプ(2F)	中間階・妻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
3	Aタイプ(10F)	最上階・妻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
4	Bタイプ(2F)	最下階・中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
5	Bタイプ(3F)	中間階・中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
6	Cタイプ(2F)	最下階・妻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
7	Cタイプ(3F)	中間階・妻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
8	Cタイプ(9F)	最上階・妻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
9	Dタイプ(10F)	最上階	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			

図 10-13

■コージェネレーションの採用

手順 1

コージェネレーションを設置する場合にチェック

■コージェネレーションの種類

手順 2

コージェネレーションを設置する場合に種類をプルダウンリストより選択

■コージェネレーションの機器

手順 3

コージェネレーションの機器をダイアログを開いて選択または直接入力

※コージェネレーションの機器については、

「一般社団法人 住宅性能評価・表示協会 溫熱・省エネ設備機器等ポータルサイト(住宅版)」

(<https://shoenekikiportal.hyoukakyoukai.or.jp/#/cogenerations>) を参照

■逆潮流の評価

手順 4

逆潮流の評価をする場合にチェック

10.11 Web 計算支援

図 10-14 に示す画面に表示される手順に従って、住宅一次エネルギー消費量の計算を計算します。本ソフトウェアでは、Web 計算用の XML ファイルを生成し、自動でアップロード、計算結果 PDF ファイルを取得します。計算する住戸を指定するだけなので、入力ミスを無くし、作業時間を大幅に短縮することができます。([手動]を選択すれば、一連の操作をユーザー自身で行うことができます。)

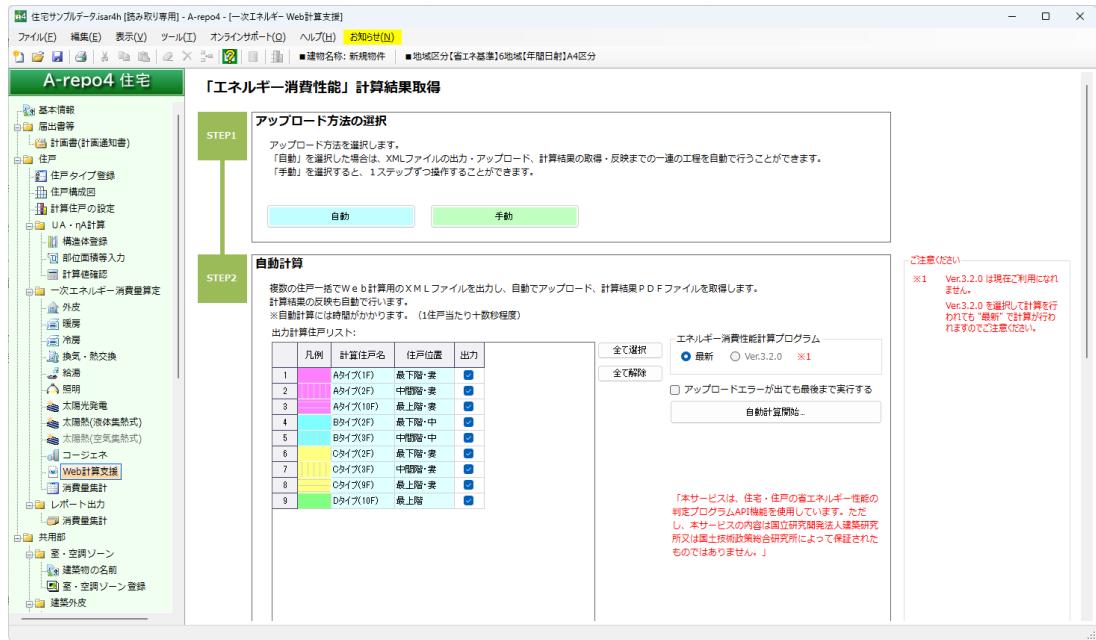


図 10-14

■エネルギー消費性能計算プログラムのバージョンの指定

Ver. 3.2.0 は現在ご利用になれません。Ver. 3.2.0 を選択して計算を行っても“最新”で計算が行われますのでご注意ください。



■共同住宅等の計算結果集計プログラム

一次エネルギー消費量計算結果の PDF を計算結果登録システム用に集計した PDF の出力が行えます。また住戸リスト CSV の出力ボタン押下で共同住宅等の計算結果プログラムへ読み込む住戸リスト CSV の出力が行えます。※共同住宅の場合のみ表示されます。

運用の詳細については提出先の審査機関へご確認ください。

エネルギー消費性能計算プログラム

■ 共同住宅等の計算結果集計プログラム

「共同住宅等の計算結果集計プログラム」は、各住戸ごとにに出力された「一次エネルギー消費量計算結果」のPDFファイルを、計算結果登録システム用に一つにまとめるすることができます。また、「住戸リストの出力」からCSVファイルを出力します。

次に、「共同住宅等の計算結果集計プログラム」のリンク先で「一次エネルギー消費量計算結果」のPDFファイルを読み込み、その後、出力した住戸リストを読み込んでください。

■計算結果登録システム

2025年4月から、建築物エネルギー消費性能適合判定申請には計算結果登録システムからダウンロードした省エネ適判申請用の計算結果が必要になります。運用の詳細については提出先の審査機関へご確認ください。

Web program Registration system

計算結果登録システム

建築物エネルギー消費性能適合性判定申請に必要な「一次エネルギー消費量計算結果」を登録します。
※2025年4月から、建築物エネルギー消費性能適合性判定申請には、計算結果登録システムからダウンロードした省エネ適応申請用の計算結果が必要になります。

- 戸建の場合
「一次エネルギー消費量計算結果」のPDFファイルを用意し、リンク先の「計算結果登録システム」で登録を行ってください。
- 共同住宅や複合建築物等の場合
「共同住宅等の計算結果集計プログラム」で一つにまとめたPDFファイルを用意し、リンク先の「計算結果登録システム」で登録を行ってください。

[計算結果登録システム【リンク】](#)

10.12 消費量集計

建築物全体の一次エネルギー消費量の集計を行います。(図 10-15)

住宅サンプルデータisard4h(読み取り専用) - A-repo4 - [一次エネルギー消費量算定]

ファイル(E) 標準(E) 表示(U) ツール(T) オンライントークン(B) ヘルプ(H) お知らせ(N)

■建物名: 新規物件 ■地域区分: [省エネ基準] 5地域 [年間日射] A4区分

A-repo4 住宅

■ 基本情報

■ 展示場等

- 計画書(計画通知書)

■ 住戸

- 住戸タイプ登録
- 住戸構成図
- 計画住戸の設定
- UA - nA計算
- 構造体験録
- 部位面積等入力
- 計算面積確認

■ 一次エネルギー消費量算定

- 外皮
- 種類
- 冷房
- 換気、熱交換
- 給湯
- 照明
- 太陽光発電
- 太陽熱(液体集熱式)
- 太陽熱(空気集熱式)
- コーナー等
- Web計算支援
- 消費量算定

■ 共用部

- 基 - 空調ゾーン
- 建蔽限の名前
- 基 - 空調ゾーン登録

凡例	計算住戸名	住戸位置	住戸数 [戸]	一次エネルギー消費量						その他を除く値							
				設計値		基準値		説明基準		設計値 [GJ/年]		基準値 [GJ/年]		BEI		説明BEI (再計算)	
				[MJ/戸年-基]	[MJ/戸年-算]	[MJ/戸年-基]	[MJ/戸年-算]	[GJ/戸年-基]	[GJ/戸年-算]	[GJ/戸年-基]	[GJ/戸年-算]	[GJ/戸年-基]	[GJ/戸年-算]	[GJ/戸年-基]	[GJ/戸年-算]		
1	Aタイプ(1F)	東下階・妻	1	40,227	40,3	54,312	54,312	46,411	46,411	46,5	46,5	255	398	0.65	0.65 ★★★★★★		
2	Aタイプ(2F)	中間階・妻	8	41,384	41,4	54,312	54,312	46,411	46,411	46,5	46,5	268	398	0.68	0.68 ★★★★★★		
3	Aタイプ(1F)	最上階・妻	1	40,517	40,6	54,312	54,312	46,411	46,411	46,5	46,5	258	395	0.65	0.65 ★★★★★★		
4	Bタイプ(2F)	東下階・中	1	47,255	47,3	63,145	63,145	63,2	58,978	53,9	53,9	305	464	0.65	0.65 ★★★★★★		
5	Bタイプ(3F)	中間階・中	7	45,938	46,0	63,145	63,145	63,2	58,978	53,9	53,9	292	464	0.63	0.63 ★★★★★★		
6	Cタイプ(2F)	最上階・妻	1	53,353	53,4	7,135	7,135	7,14	60,815	60,9	60,9	34,8	52,6	0.66	0.66 ★★★★★★		
7	Cタイプ(3F)	中間階・妻	6	53,133	53,2	7,135	7,135	7,14	60,815	60,9	60,9	34,4	52,6	0.66	0.66 ★★★★★★		
8	Cタイプ(9F)	最上階・妻	1	52,408	52,5	7,135	7,135	7,14	60,815	60,9	60,9	33,6	52,6	0.64	0.64 ★★★★★★		
9	Dタイプ(10F)	最上階	1	62,419	62,5	85,211	85,3	72,303	72,4	418	418	0.65	0.84 ★★★★★★				
	住戸部分合計		27														
	ガストルーム合計		0														

住戸ごとの集計を表示

※一次エネルギー消費量の各値は、計算住戸の床面積、外皮面積、UA値、kA値、kAHI値等の変更に応じて、クリックされます。

項目	一次エネルギー消費量				その他を除く値			
	設計値		基準値		設計値		基準値	
	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	[GJ/年]	BEI	説明BEI (再計算)
①住戸部分合計	1,269.0	1,701.6	1,455.8	0	814	1,252.5	0.68	0.67
②共用部(ガストルーム等)	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
③共用部	290.5	392.5	314.1	290.5	392.5	392.5	0.74	—
④住戸部分	合計①+③	1,559.5	2,098.7	1,769.9	1,105.9	1,645.2	0.68	0.67
判定	—	適合	適合	—	BEIS値	—	—	—

図 10-15

住戸の一次エネルギー消費量の基準値及び設計値は〈10.11 Web 計算支援〉で取得した結果が入力されます。各計算住戸と同じグループとなる住戸数は〈8 計算住戸の設定〉の設定により自動で集計されます。

共用部の一次エネルギー消費量は、各住戸の入力とは別に、〈11 共用部の入力〉に従って入力し、計算した結果を手動で転記します。

また非住宅の一次エネルギー消費量は、「Arepo4 建築」を使用して計算したものを入力します。
(共用部と非住宅の計算方法は、「操作マニュアル」及び「ユーザーガイド（建築）」を参照してください。)

10.13 レポート出力

各種設備の変更など様々な検討を行った際の計算結果を、一覧・グラフで出力します。

10.13.1 消費量集計

図 10-16 に示すレポート出力画面を元に出力手順を記載します。



図 10-16

設備別設計一次エネルギー消費量の各値は〈10.11 Web 計算支援〉で取得した結果が入力されます。

手順 1

出力計算住戸リストより出力したい計算住戸を選択し、設備別設計一次エネルギー消費量の値を全て（太陽光発電等発電量 評価量を除く）入力していることを確認

手順 2

出力したい一次エネルギー消費量等級の判定条件を選択

手順 3

ボタンを押し、保存先フォルダを指定

11 共用部の入力

共同住宅等の共用部については、「非住宅建築物」として「国土技術政策総合研究所資料 非住宅建築物の外皮性能評価プログラム解説」及び「国土技術政策総合研究所資料 一次エネルギー消費量算定プログラム解説(非住宅建築物編)」に基づく計算が必要になります。

Arepo 住宅では、住宅の共用部用途についてのみ、「非住宅建築物」の計算が行えます。

入力内容と計算の方法については、「Arepo4 ユーザーガイド(建築)」を参照してください。

省エネルギー計算サポートソフトウェア

A-repo4

ユーザーガイド（住宅）

2025年 11月作成

制作者 [東京オフィス]

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-1

第一勧銀飯田橋稻垣ビル 6階

ホームページ URL: <https://izmc.co.jp/>

お問い合わせフォーム：

<https://izmc.co.jp/it/software/>

├ [操作サポート・不具合] 027-384-2356

└ [ご契約・購入] 03-3868-3126

©Izumi Consulting Inc. All Rights Reserved.

-
- (1) 本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
 - (2) このソフトウェアの仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
 - (3) 製品の内容については万全を期していますが、ご不審な点や誤り、マニュアルの記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

MS-Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

その他、会社名、製品名は、一般に各社の登録商標、商標です。